

維管束植物リスト<改訂:平成26年>

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅	ウラボシ	ウラボシ	ヒトツバノキシノブ <i>Pyrrhosia angustissima</i>	国内で唯一阿南市で記録されたが、その後確認されていない。	絶滅	絶滅	
絶滅	オモダカ	オモダカ	サジオモダカ <i>Alisma plantago-aquatica var. orientale</i>	徳島県立博物館に1976年に徳島市で採取された標本があるが、栽培品の逸出の可能性があり、その後の確認情報は得られない。	絶滅		
絶滅	オモダカ	オモダカ	マルバオモダカ <i>Caldesia parnassiifolia</i>	池田町に記録があるが、生育地が埋め立てられ絶滅した。	絶滅		
絶滅	ラン	ラン	ムカゴトンボ <i>Peristylus flagellifer</i>	県内の数箇所に記録されているが、その後は確認情報が得られない。	絶滅	絶滅危惧IB類	
絶滅	ラン	ラン	ナゴラン <i>Sedirea japonica</i>	日和佐町に記録があるが、早くに絶滅した模様である。	絶滅	絶滅危惧IB類	
絶滅	カヤツリグサ	カヤツリグサ	クロミノハリイ <i>Eleocharis atropurpurea</i>	那賀町に記録があるが、記録地には確認できない。	絶滅	絶滅危惧IA類	
絶滅	イラクサ	イラクサ	ハドノキ <i>Oreocnide pedunculata</i>	牟岐町に記録があるが、その後は記録地に確認できない。	絶滅		
絶滅	ヒユ	アカザ	アツケシソウ <i>Salicornia europaea</i>	かつて鳴門市に生育していたとされているが、確かな記録はなく、現在も確認できない。	絶滅	絶滅危惧II類	
絶滅	サクラソウ	サクラソウ	リュウキュウコザクラ <i>Androsace umbellata</i>	かつて美馬市で記録されたが、その後の生育情報は得られない。	絶滅		
絶滅	オオバコ	ゴマノハグサ	ウンラン <i>Linaria japonica</i>	かつて鳴門市の海岸で記録されたが、絶滅した。	絶滅		
絶滅	オオバコ	ヒシモドキ	ヒシモドキ <i>Trapella sinensis</i>	県内に数箇所記録があるが、最近の生育情報は得られない。	絶滅	絶滅危惧IB類	
絶滅	クマツヅラ	クマツヅラ	イワダレソウ <i>Phyla nodiflora</i>	かつて鳴門市で記録されたが、絶滅し、その後、生育情報は得られない。	絶滅		
絶滅	セリ	セリ	ヌマゼリ <i>Sium suave var. nipponicum</i>	徳島市に記録があるが、生育地が埋め立てられて絶滅した。	絶滅	絶滅危惧II類	
野生絶滅	モクレン	モクレン	コブシモドキ <i>Magnolia pseudokobus</i>	自生地からは絶滅したが、挿し木などにより増殖した株が各所で植栽されている。	絶滅	野生絶滅	
野生絶滅	ラン	ラン	サギソウ <i>Pecteilis radiata</i>	生育地は絶滅した模様で、かつての生育地では県内産のほか、産地不詳のものも植栽された。	絶滅	準絶滅危惧	
野生絶滅	カヤツリグサ	カヤツリグサ	オオムギスゲ <i>Carex laticeps</i>	かつての生育地は道路工事で消失し、周辺部を何度も調査したが生育は確認できない。	絶滅危惧I類		栽培下では存続している。
野生絶滅	マメ	マメ	ナルトオウギ <i>Astragalus sikokianus</i>	野生は絶滅したが栽培下で存続している。	絶滅	野生絶滅	
絶滅危惧IA類	ケシ	ケシ	ヤマキケマン <i>Corydalis ophiocarpa</i>	生育場所は限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ	ナンカクラン <i>Huperzia fordii</i>	生育場所は少なく個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ	ヒメスギラン <i>Huperzia miyoshiana</i>	県内の生育場所は限られ個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IA類	ミズニラ	ミズニラ	ミズニラ <i>Isoetes japonica</i>	生育場所は限られ、溜め池などの改修や農薬などの影響で減少した。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IA類	ハナヤスリ	ハナヤスリ	ナガホノナツノハナワラビ <i>Botrychium strictum</i>	生育場所に限られ、個体数も極めて少なく、確かな生育情報がない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ハナヤスリ	ハナヤスリ	ハマハナヤスリ <i>Ophioglossum thermale</i>	生育場所に限られ個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ゼンマイ	ゼンマイ	シロヤマゼンマイ <i>Osmunda banksiifolia</i>	生育場所は県南の1箇所で個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	コケシノブ	コケシノブ	チチブホラゴケ <i>Crepidomanes schmidtianum</i>	県内の生育地は1箇所に限られ、個体数もわずかである。	情報不足		
絶滅危惧IA類	コケシノブ	コケシノブ	オオハイホラゴケ <i>Vandenboschia birmanica</i>	県内の生育地は1箇所にのみ記録されていたが、他の1箇所でも確認された。個体数はわずかである。	情報不足		
絶滅危惧IA類	サンショウモ	アカウキクサ	アカウキクサ <i>Azolla imbricata</i>	生育場所は極めて限られ、環境悪化により激減した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	サンショウモ	アカウキクサ	オオアカウキクサ <i>Azolla japonica</i>	過去に記録された生育地の多くが外来種の侵入により消滅した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	サンショウモ	サンショウモ	サンショウモ <i>Salvinia natans</i>	生育環境悪化のために生育場所が急激に減少した。個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	コバノイシカグマ	コバノイシカグマ	ユノミネシダ <i>Histiopteris incisa</i>	県南の1箇所に生育が知られ、個体数もわずかである。			
絶滅危惧IA類	コバノイシカグマ	コバノイシカグマ	ヒメムカゴシダ <i>Monachosorum arakii</i>	生育場所は極めて限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	イノモトソウ	ホウライシダ	クジャクシダ <i>Adiantum pedatum</i>	生育場所は数箇所に限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	イノモトソウ	シシラン	タキミシダ <i>Antrophyum obovatum</i>	生育場所は限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	イノモトソウ	シシラン	ナカミシシラン <i>Haplopteris fudzinoi</i>	生育場所は限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	イノモトソウ	イノモトソウ	ヒカゲアマクサシダ <i>Pteris purpureorachis</i>	県内には1箇所に生育し、個体数は極めて少ない。		絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	チャセンシダ	チャセンシダ	オオタニワタリ <i>Asplenium antiquum</i>	2009年、樹幹に着生している新しい個体が確認されたが、翌年採取されて無くなった。	絶滅	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	チャセンシダ	チャセンシダ	ヒメイワトラノオ <i>Asplenium capillipes</i>	生育場所は限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	チャセンシダ	チャセンシダ	イチョウシダ <i>Asplenium ruta-muraria</i>	生育場所は石灰岩地に限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IA類	チャセンシダ	チャセンシダ	コタニワタリ <i>Asplenium scolopendrium</i>	生育場所は限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	チャセンシダ	チャセンシダ	アオチャセンシダ <i>Asplenium viride</i>	生育場所は限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ヒメシダ	ヒメシダ	ホソバシヨリマ <i>Thelypteris beddomei</i>	生育場所は1箇所のみで、個体数も極めて少ない。生育環境が悪化して急激に減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ヒメシダ	ヒメシダ	タチヒメワラビ <i>Thelypteris bukoensis</i>	県西部の山地の1箇所で確認され、個体数もわずかである。			
絶滅危惧IA類	ヒメシダ	ヒメシダ	ヨコグラヒメワラビ <i>Thelypteris hattorii</i> var. <i>hattorii</i>	生育場所は限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ヒメシダ	ヒメシダ	オオハシゴシダ <i>Thelypteris hirsutipes</i>	生育場所は数箇所に限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ヒメシダ	ヒメシダ	ミゾシダモドキ <i>Thelypteris leveillei</i>	生育場所は数箇所に限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IA類	ヒメシダ	ヒメシダ	ケホシダ <i>Thelypteris parasitica</i>	県南の数箇所に生育し、個体数も極めて少ない。			
絶滅危惧IA類	イワデンダ	イワデンダ	ツクシイヌワラビ <i>Athyrium kuratae</i>	県西部の山間地で生育が確認され、個体数も少ない。			
絶滅危惧IA類	イワデンダ	イワデンダ	サキモリイヌワラビ <i>Athyrium oblitescens</i>	主として県南に生育し、個体数も少ない。			
絶滅危惧IA類	イワデンダ	メシダ	タカネサトメシダ <i>Athyrium pinetorum</i>	生育場所は限られ、個体数も極めて少ない。ニホンジカ等による摂食圧で絶滅寸前である。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	イワデンダ	メシダ	シイバサトメシダ <i>Athyrium sohayakiense</i>	生育場所は限られ、個体数も極めて少ない。ニホンジカ等による摂食圧で急激に減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IA類	
絶滅危惧IA類	イワデンダ	イワデンダ	ナヨシダ <i>Cystopteris filix-fragilis</i>	生育場所は剣山のみで個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	イワデンダ	イワデンダ	フモトシケシダ <i>Deparia pseudoconilii</i> var. <i>pseudconilii</i>	記録を含めて生育地が数箇所に限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	イワデンダ	イワデンダ	イヨクジャク <i>Diplazium okudairae</i>	生育場所に限られ個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	イワデンダ	イワデンダ	ミヤマシダ <i>Diplazium sibiricum</i> var. <i>glabrum</i>	生育場所が剣山のみで個体数も極めて少ない。ニホンジカなどによる摂食圧を受けている。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	イワデンダ	イワデンダ	ヒユウガシダ <i>Diplazium takii</i>	県南の数箇所に生育が知られ、個体数も極めて少ない。			
絶滅危惧IA類	イワデンダ	イワデンダ	イヌイワデンダ <i>Woodsia commixta</i>	生育場所に限られ個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IA類	イワデンダ	イワデンダ	ケンザンデンダ <i>Woodsia hancockii</i>	生育場所に限られ個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		トガクシデンダ <i>W. glabella</i> と同種とする見解がある。
絶滅危惧IA類	コウヤワラビ	イワデンダ	クサソテツ <i>Matteuccia struthiopteris</i>	生育場所に限られ個体数も極めて少ない。本来の自生でないものが多く、それを除く。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	オシダ	オシダ	カツモウイノデ <i>Ctenitis subglandulosa</i>	生育場所は1箇所のみで個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	オシダ	オシダ	ツクシイワヘゴ <i>Dryopteris commixta</i>	生育場所は数箇所に限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	オシダ	オシダ	オシダ <i>Dryopteris crassirhizoma</i>	生育場所が剣山に限られ個体数も少ない。ニホンジカなどによる摂食圧を強く受けている。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	オシダ	オシダ	キシマイワヘゴ <i>Dryopteris hangchowensis</i>	生育場所は1箇所のみで、個体数も極めて少ない。ニホンジカによる摂食圧を強く受けている。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IA類	県指定希少野生生物 (H.19)
絶滅危惧IA類	オシダ	オシダ	ギフベニシダ <i>Dryopteris kinkiensis</i>	県内での確認は1箇所のみで、個体数もごくわずかである。			
絶滅危惧IA類	オシダ	オシダ	ミヤマベニシダ <i>Dryopteris monticola</i>	生育場所は数箇所に限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	オシダ	オシダ	アツキノスカイタチシダ マガイ <i>Dryopteris simasakii</i> var. <i>paleacea</i>	生育地、個体数ともに極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	オシダ	オシダ	タニヘゴ <i>Dryopteris tokyoensis</i>	生育場所は数箇所に限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	オシダ	オシダ	チャボイノデ <i>Polystichum igaense</i>	生育場所は限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	オシダ	オシダ	オリヅルシダ <i>Polystichum lepidocaulon</i>	生育場所は極めて限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IA類	オンダ	オンダ	アイアスカイノデ <i>Polystichum longifrons</i>	生育地、個体数とも極めて少ない。			
絶滅危惧IA類	ウラボシ	ヒメウラボシ	オオクボシダ <i>Micropolypodium okuboii</i>	生育場所は数箇所に限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ウラボシ	ヒメウラボシ	ヒロハヒメウラボシ <i>Oreogrammitis nipponica</i>	数箇所に生育記録があるが、最近では消滅した場所が多く、確認できない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IA類	
絶滅危惧IA類	ウラボシ	ウラボシ	ミヤマウラボシ <i>Selliguea veitchii</i>	生育場所が限られ個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ウラボシ	ウラボシ	ヤクシマウラボシ <i>Selliguea yakuinsularis</i>	生育場所が限られ個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	ジュンサイ	スイレン	ジュンサイ <i>Brasenia schreberi</i>	県内の生育地は極めて少なく、生育地のうちの2箇所は環境悪化のため消滅の様態である。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	スイレン	スイレン	オニバス <i>Euryale ferox</i>	県内の生育場所は極めて少なく、環境悪化のために個体数も激減している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	スイレン	スイレン	コウホネ <i>Nuphar japonica</i>	県内の生育は極めて少なく、個体数も著しく減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	スイレン	スイレン	ヒツジグサ <i>Nymphaea tetragona</i> var. <i>tetragona</i>	県内の生育地は極めて少なく、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		溜め池に生育するものは栽培由来の可能性はある。
絶滅危惧IA類	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	ツチグリカンアオイ <i>Asarum asperum</i> var. <i>geaster</i>	生育場所は県南の一部に限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	モモイロカンアオイ <i>Asarum rigescens</i> var. <i>albescens</i>	生育場所は限られ、個体数も少ない上に、採取されて減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	サカワサイシン <i>Asarum sakawanum</i> var. <i>sakawanum</i>	生育場所は県西部の一部に限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	ヒメカンアオイ <i>Asarum takaoui</i> var. <i>takaoui</i>	生育場所は県南の一部のみで、個体数もごく少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	サトイモ	サトイモ	ツルギテンナンショウ <i>Arisaema abei</i>	生育地は限られていて、個体数も少ない。園芸用採取やニホンジカの食害により減少が著しい。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	サトイモ	サトイモ	マイヅルテンナンショウ <i>Arisaema heterophyllum</i>	新たに竹林内で生育が確認された。個体数はやや多いが成熟個体はわずかである。	絶滅	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	サトイモ	サトイモ	イシヅチテンナンショウ <i>Arisaema ishizuchiense</i>	県内の生育地は限られていて、個体数も少ない。園芸用採取、ニホンジカの食害による影響などで減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IA類	
絶滅危惧IA類	サトイモ	サトイモ	シコクテンナンショウ <i>Arisaema iyoanum</i> subsp. <i>nakaianum</i>	県内の生育地は少なく、個体数も少ない。園芸用採取、ニホンジカの食害による影響などで減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	チシマゼキショウ	ユリ	チャボゼキショウ <i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>kondoi</i>	県内の生育場所は極めて少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	オモダカ	オモダカ	アギナシ <i>Sagittaria aginashi</i>	県内の生育地は1箇所のみが知られ、生育地の環境は自然遷移が進んで悪化している。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IA類	トチカガミ	トチカガミ	マルミスブタ <i>Blyxa aubertii</i>	生育地は極めて少なく、生育地の湿地の耕作放棄などで個体数は激減した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	トチカガミ	トチカガミ	スブタ <i>Blyxa echinosperma</i>	溜め池と水田が主な生育地であるが、水質悪化や耕作放棄で個体数は減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	トチカガミ	トチカガミ	オオウミヒルモ <i>Halophila major</i>	県南の浅海に生育するが個体数は少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	トチカガミ	トチカガミ	トチカガミ <i>Hydrocharis dubia</i>	かつては水路や溜池などに普通に見られたが、生育環境の悪化で急激に減少した。		準絶滅危惧	

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IA類	トチカガミ	イバラモ	ムサシモ <i>Najas ancistrocarpa</i>	ハス田のハウス内に群生していたが、次第に減少し、消滅寸前になっている。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	トチカガミ	イバラモ	イトトリゲモ <i>Najas gracillima</i>	生育地は少なく、工事や埋め立てなどで減少した。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IA類	トチカガミ	イバラモ	トリゲモ <i>Najas minor</i>	県内では2箇所の溜め池に生育しているが、1箇所は水質汚濁で激減している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ヒルムシロ	ヒルムシロ	コバノヒルムシロ <i>Potamogeton cristatus</i>	県内の生育は極めてまれで、生育地の溜め池の1箇所は埋め立てられ、他の1箇所も環境が悪化している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ヒルムシロ	ヒルムシロ	ツツイトモ <i>Potamogeton pusillus</i>	鳴門市で新たに生育が確認された。	絶滅	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ヒルムシロ	イトクズモ	イトクズモ <i>Zannichellia palustris</i>	県内の現存場所は2箇所、その内1箇所は自然遷移により消滅寸前になっている。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	カワツルモ	ヒルムシロ	カワツルモ <i>Ruppia maritima</i>	新たに生育が確認された。	絶滅	準絶滅危惧	
絶滅危惧IA類	キンコウカ	ユリ	ネバリノグラン <i>Aletris foliata</i>	県内の生育地は極めて少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	タヌキノシヨクダイ	ヒナノシャクジョウ	タヌキノシヨクダイ <i>Thismia abei</i>	現存地は1箇所のみで発生場所は保護柵を設置しているが、発生時期に多くの人を訪れるので、踏圧や林床の攪乱で減少が著しい。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	生育地は国指定天然記念物。
絶滅危惧IA類	ホンゴウソウ	ホンゴウソウ	ウエマツソウ <i>Sciaphila secundiflora</i>	県内の生育地は少なく、森林の伐採や林床の乾燥化で減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	サルトリイバラ	ユリ	タチシオデ <i>Smilax nipponica</i>	県内では蛇紋岩地の1地域に生育し、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		ホソバタチシオデ <i>f. tenuifolia</i> を含める。
絶滅危惧IA類	ユリ	ユリ	トサコバイモ <i>Fritillaria shikokiana</i>	県内の生育地は限られていて、個体数も少なく、園芸用採取により減少傾向にある。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ユリ	ユリ	キバナノアマナ <i>Gagea nakaiana</i>	県内の生育地、個体数ともに少なく、最近ほとんど見られなくなっている。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ユリ	ユリ	ジンリョウユリ <i>Lilium abeanum</i>	生育地は蛇紋岩地に限られ、園芸用採取、道路工事、ニホンジカの食害などで減少した。保護活動で個体数が回復した場所もある。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	徳島県の固有種。パイオで増殖した苗を植えているところがある。県指定希少野生生物(H.19)
絶滅危惧IA類	ユリ	ユリ	ヒメユリ <i>Lilium concolor</i>	生育地は限られ、個体数もわずかである上に、園芸用採取や生育環境の悪化などで激減した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	県内最大の自生地では過去に外部からの球根を多数植栽した記録がある。
絶滅危惧IA類	ユリ	ユリ	ササユリ <i>Lilium japonicum</i>	生育地は極めて少なく、個体数も少ない。植栽した個体が多い。	絶滅危惧I類		近年、最大の生育地では人為的に増殖した球根を自生地に植栽している。
絶滅危惧IA類	ユリ	ユリ	クルマユリ <i>Lilium medeoloides</i>	生育地は限定されていて、個体数も極めて少なかったが、園芸採用取やニホンジカの食害でさらに減少し、最近ほとんど確認できなくなっている。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ユリ	ユリ	タマガワホトトギス <i>Tricyrtis latifolia var. latifolia</i>	県内の生育地は限られ、主に園芸用採取により個体数が減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	イワチドリ <i>Amitostigma keiskei</i>	生育地は極めて少ない上に、園芸用採取や自然遷移などで個体数は著しく減少した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	キソエビネ <i>Calanthe alpina</i>	新たに生育が確認された。	絶滅	絶滅危惧IA類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	キリンシマエビネ <i>Calanthe aristulifera</i>	生育地は極めて少なく、新しく生育が確認されても、すぐ、採取され、自生地の存続が極めて難しい。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	キンセイラン <i>Calanthe nipponica</i>	生育地は極めて少なく、園芸用採取、樹林の伐採、道路工事などで個体数の減少が著しい。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	キエビネ <i>Calanthe striata</i>	園芸用に採取され、生育地、個体数ともに極めて少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	サルメンエビネ <i>Calanthe tricarinata</i>	園芸用に採取されるため、生育場所は極めて少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ユウシュンラン <i>Cephalanthera erecta</i> var. <i>subaphylla</i>	生育場所は少なく、個体数も少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ササバギンラン <i>Cephalanthera longibracteata</i>	生育場所はごく限られていて個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	クゲヌマラン <i>Cephalanthera longifolia</i>	県内の生育地は1箇所のみが知られ、ニホンジカの食害などで減少している。		絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ヒメノヤガラ <i>Chamaegastrodia sikokiana</i>	県内の生育地は極めて少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ムカデラン <i>Cleisostoma scolopendrifolium</i>	県内での生育場所はごくわずかに知られるのみで、個体数も少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	トクシマサイハイラン <i>Cremastra</i> sp.	県内にはモイワラン類似種のトクシマサイハイラン(仮称)が生育している。生育地、個体数とも極めて少ない。		絶滅危惧IA類	正式の学名は未発表。
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	トケンラン <i>Cremastra unguiculata</i>	生育地は極めて少なく、個体数もごくわずかである。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	カンラン <i>Cymbidium kanran</i>	園芸用やマニアなどに採取され、生育地、個体数ともに極めて少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	マヤラン <i>Cymbidium macrorhizon</i>	生育地の環境変化により、かつての生育場所には確認されなくなり、生育場所、個体数ともに著しく減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	サガミラン(サガミランモドキ) <i>Cymbidium nipponicum</i>	県内の1箇所ですべて生育が確認された。個体数はわずかである。		絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ナギラン <i>Cymbidium nagifolium</i>	以前に比べて、生育地、個体数ともに著しく減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	アオチドリ <i>Dactylorhiza viridis</i>	県内の生育地は高山に限定され、採取やニホンジカの食害などで、最近著しく減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	イチヨウラン <i>Dactylostalix ringens</i>	県内の分布は少なく、園芸用に採取されるので、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	キバナノセッコク <i>Dendrobium catenatum</i>	県内の生育場は限られていて、園芸用採取の他に着生している樹木の枯死、伐採で減少した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	県指定希少野生生物(H.22)
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	エゾスズラン(アオスズラン) <i>Epipactis papillosa</i> var. <i>papillosa</i>	県内の生育は極めて少なく、個体数もわずかである。採取圧とニホンジカの食害により、個体数の維持は難しい。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	カキラン <i>Epipactis thunbergii</i>	草地の自然遷移や工事などにより、生育地、個体数ともに減少が著しい。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	オサラン <i>Eria japonica</i>	県内の生育は極めて稀で、個体数もごく少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	カモメラン <i>Galearis cyclochila</i>	生育地は1箇所のみで、個体数も極めてわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	カンノキラン <i>Gastrochilus japonicus</i>	県内の生育地は極めて少なく、園芸用採取と環境悪化により個体数が減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	モミラン <i>Gastrochilus toramanus</i>	県内の生育地は極めて限られていて、個体数もごくわずかである。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	オキノヤガラ <i>Gastrodia elata</i> var. <i>elata</i>	県内の生育地、個体数ともわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	シロテンマ <i>Gastrodia elata</i> var. <i>pallens</i>	県内の生育は極めてまれで、個体数もごく少ない。		絶滅危惧IA類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ツリシュスラン <i>Goodyera pendula</i>	県内の生育地は極めて少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	マツラン(ペニカヤラン) <i>Gastrochilus matsuran</i>	過去に記録された生育地の多くに確認できず、現存地は極めて少なく、個体数もわずかである。	情報不足	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ダイサギソウ <i>Habenaria dentata</i>	県内の生育地は極めて限られ、個体数もごくわずかである。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ムカゴソウ <i>Herminium lanceum</i>	かつては生育地が多く記録されているが、遷移の進行や開発による生育適地の減少で、現存場所は少なく、個体数もわずかである。	情報不足	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	シラヒゲムヨウラン <i>Lecanorchis flavicans</i> var. <i>acutiloba</i>	県内の生育地は1箇所のみで、個体数も減少している。		絶滅危惧IA類	サキシマスケロクランvar. <i>flavicans</i> とは区別できず、同種とする見解がある(遊川2013.私信)。
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ホクリクムヨウラン <i>Lecanorchis hokurikuensis</i>	県内の生育地は極めて少なく、樹林の環境変化などで個体数も減少している。	絶滅危惧I類		キイムヨウランf. <i>kiensis</i> を含める。
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	クロムヨウラン <i>Lecanorchis nigricans</i> var. <i>nigricans</i>	県内の生育地は少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	アワムヨウラン <i>Lecanorchis trachycaula</i>	県内の生育地は1箇所のみで、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IA類	県指定希少野生生物(H.22)
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ギボウシラン <i>Liparis auriculata</i>	県内の生育場所は少ない上に園芸用に採取されるため、激減している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	セイタカスズムシソウ <i>Liparis japonica</i>	県内の生育地は少ない上に、園芸用に採取されるので、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	スズムシソウ <i>Liparis makinoana</i>	県内の生育地は極めて少なく、園芸用として採取され、個体数もごくわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ボウラン <i>Luisia teres</i> var. <i>teres</i>	県内の生育地は極めて少なく、個体数も少ない。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ホザキイチヨウラン <i>Malaxis monophyllos</i>	県内の生育地は高山に限定されている。最近ではニホンジカの食害による生育環境の荒廃で個体数は減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	アリドオシラン <i>Myrmechis japonica</i>	県内の生育地は高山の1箇所に限られ、ニホンジカの食害による影響で生育環境が悪化し、個体数は減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ノビネチドリ <i>Neolindleya camtschatica</i>	県内の生育地は高山に限定され、園芸用採取やニホンジカの食害などで、著しく減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	コフタバラン(フタバラン) <i>Neottia cordata</i>	県内の生育地は数箇所が知られるのみで、個体数もわずかである。	情報不足		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ヒメフタバラン <i>Neottia japonica</i>	県内の生育地は極めて少なく、個体数もごくわずかである。			
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ミヤマモジズリ <i>Neottianthe cucullata</i>	県内の生育は1箇所が知られるのみで、個体数もごく少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ムカゴサイシン <i>Nervilia nipponica</i>	県内の生育地は1地域に限られ、個体数も減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	オオバヨウラクラン <i>Oberonia makinoi</i>	県内の現存地は1箇所のみに限られ、個体数も極めて少ない。	情報不足	絶滅危惧IA類	

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	イヨトシボ <i>Peristylus iyoensis</i>	新たに生育が確認された。	絶滅	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ガンゼキラン <i>Phaius flavus</i>	新たに生育が確認された。	絶滅	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ジンバイソウ <i>Platanthera florentii</i>	県内の生育場所は極めて少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ミズチドリ <i>Platanthera hologlottis</i>	県内の生育地は限られ、生育環境の自然遷移で個体数は減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	イヌマムカゴ <i>Platanthera iinumae</i>	もともと希少な種で、生育場所は極めて限られ、わずかな現存地も採取により個体数が減少している。	情報不足	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ツレサギソウ <i>Platanthera japonica</i>	県内の生育地は少なく、園芸採取と生育場所の環境悪化などで個体数は減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	マイサギソウ <i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>mandarinorum</i> var.	県内の生育地は極めて少なく、個体数もわずかである。	情報不足		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ヤマサギソウ <i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>mandarinorum</i> var. <i>oreades</i>	県内の生育地は少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ハシナガヤマサギソウ <i>Platanthera mandarinorum</i> var. <i>mandarinorum</i>	過去に数箇所の生育地が記録されているが、最近の生育情報はわずかである。	絶滅危惧I類		花期に再検討が必要。
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	キソチドリ <i>Platanthera ophrydioides</i> var. <i>monophylla</i>	県内の生育地は高山に限られ個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		ナガバノキソチドリ <i>f. australis</i> を含める。
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	コバノトンボソウ <i>Platanthera tipuloides</i> subsp. <i>nippoica</i>	県内の生育地は限られ、個体数もわずかである。	情報不足		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	トキシソウ <i>Pogonia japonica</i>	県内の生育地は極めて少なく、生育場所の自然遷移により個体数は減少している。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ヤマトキシソウ <i>Pogonia minor</i>	過去には多くの生育地が記録されているが、園芸用採取、自然遷移の進行、開発などで減少し、現存地、個体数とも極めてわずかである。	情報不足		
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ヒナチドリ <i>Ponerorchis chidori</i> var. <i>chidori</i>	新たに生育が確認されたが、まもなく採取されて消滅した。幼個体がわずかに現存している。	絶滅	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	コオロギラン <i>Stigmatodactylus sikokianus</i>	過去に記録された生育地では確認できず、新たな生育地は植林地で、個体数は年によって変動が大きい。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	キバナノショウキラン <i>Yoania amagiensis</i>	県内の生育地は極めて少なく、かつて記録された場所生では確認できないことが多い。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	ラン	ラン	ショウキラン <i>Yoania japonica</i>	県内の生育地は限られていて個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キンバイザサ	キンバイザサ	キンバイザサ <i>Curculigo orchiooides</i>	生育地はごく限られ、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	アヤメ	アヤメ	ノハナショウブ <i>Iris ensata</i> var. <i>spontanea</i>	県内での自生地は1箇所のみとされているが、生育地は開発により改変され、植栽状態になっている。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	アヤメ	アヤメ	ヒメシャガ <i>Iris gracilipes</i>	県内の自生地は1箇所のみが知られているが、園芸用採取や自然遷移等により個体数はごくわずかである。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IA類	アヤメ	アヤメ	カキツバタ <i>Iris laevigata</i>	県内での自生地は1箇所のみとされているが、生育地の湿地は開発により改変されている。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	溜め池の縁などに植栽起源と思われるものが生育している。

カテゴリー	科名		種名	理由	備考			
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項	
絶滅危惧IA類	ススキノキ	ユリ	ユウスゲ(キスゲ)	<i>Hemerocallis citrina</i> var. <i>vesperitina</i>	島嶼の一部に存続しているが個体数も少なく、それ以外の内陸部では確認できなくなった。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ヒガンバナ	ヒガンバナ	キツネノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i> var. <i>sanguinea</i>	県内では、生育地、個体数ともにわずかで、集落近くの自生地では、除草剤や工事などで減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キジカクシ	ユリ	キジカクシ	<i>Asparagus schoberioides</i>	県内の生育地は少なく、道路工事や里山の荒廃などで個体数が減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キジカクシ	ユリ	ミドリヨウラク	<i>Polygonatum inflatum</i>	生育地に限られ、ニホンジカの食害による個体数の減少が著しい。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キジカクシ	ユリ	ワニグチソウ	<i>Polygonatum involucreatum</i>	県内では石灰岩地に生育し、個体数もごくわずかで、最近ではニホンジカの食害により絶滅の危険性は極めて高い。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ガマ	ミクリ	ヤマトミクリ	<i>Sparganium fallax</i>	県内の現存地は1箇所のみで、自然遷移による環境変化で減少傾向にある。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IA類	ガマ	ミクリ	ヒメミクリ	<i>Sparganium subglobosum</i>	県内の現存地は1箇所のみで、個体数もまだかなり見られるが、湿原の自然遷移が進行していて、ヨシ原内では減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ホシクサ	ホシクサ	クロホシクサ	<i>Eriocaulon parvum</i>	県内の生育地は極めて少なく、個体数も少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	アワボスゲ	<i>Carex brownii</i>	県内の生育地は少なく、自然遷移の進行や開発などで生育適地は減少し、急激に個体数が減少した。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ワタリスゲ	<i>Carex conicoides</i>	県内の生育地は1箇所に限られていて個体数も多くない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ミヤマジュズスゲ	<i>Carex dissitiflora</i>	県内には2箇所に記録があり、その内、1箇所にはわずかな個体が現存している。	情報不足		
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	オオタマツリスゲ	<i>Carex filipes</i> var. <i>rouyana</i>	県内の生育地は少なく、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ヤマアゼスゲ	<i>Carex heterolepis</i>	県内の生育地は限られていて、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	アズマスゲ	<i>Carex lasiolepis</i>	県内の生育地は限定されていて、個体数も少ない。生育環境の悪化により、減少が著しい。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ニイタカスゲ	<i>Carex leucochlora</i> var. <i>morrisonicola</i>	県内では高山の石灰岩地にも生育し、ニホンジカの食害を受けている。			
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ミヤマイウスゲ	<i>Carex odontostoma</i>	県内には2箇所確認されている。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	これまでコイワカンスゲとされていたが、種の再検討によりミヤマイウスゲであることが判明した。県内にはコイワカンスゲは確認されていない。
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	クサスゲ	<i>Carex rugata</i>	県内の生育地は1地域に限られていて個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	オオクグ	<i>Carex rugulosa</i>	県内では1箇所にのみ生育し、四国唯一の生育地である。他種との競合により群落が衰退する恐れがある。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	県指定希少野生生物(H.23)
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ジングウスゲ	<i>Carex sacrosancta</i>	最近になって1地域の数箇所での生育が確認されたが、個体数は少ない。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	アズマナルコ	<i>Carex shimidzensis</i>	生育場所は1地域のみで、個体数もわずかでである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ツクシナルコ	<i>Carex subcernua</i>	生育地は2箇所のみで知られ、自然遷移によって減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	シロガヤツリ <i>Cyperus pacificus</i>	生育地は県南の川原の一部に限られ、 個体数もわずかである。			
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	スジヌマハリイ <i>Eleocharis equisetiformis</i>	かつての生育地の2箇所は工事などで 改変され確認できない。現在新しい生育 地が1箇所あるが、遷移により群落が衰 退している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	シズイ <i>Schonoplectus nipponicus</i>	県内の生育地は極めて少なく、個体数も 少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	タイワンヤママイ <i>Schonoplectus wallichii</i>	県内では水田に生育し、生育地は極め て少なく、確認できなくなった場所もあ り、減少が著しい。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	コマツカサススキ <i>Scirpus fuirenoides</i>	生育地は極めて少なく、個体数も少な い。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	シンジュガヤ <i>Scleria levis</i>	かつては多く生育していたが、開発や自 然遷移の進行で減少し、生育地、個体 数ともごくわずかである。	情報不足		
絶滅危惧IA類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	コシンジュガヤ <i>Scleria parvula</i>	かつては多くの生育地が記録されてい るが、自然遷移の進行や開発で生育適 地が減少し、最近では生育地、個体数とも ごくわずかである。	情報不足		
絶滅危惧IA類	イネ	イネ	ヌマカゼクサ <i>Eragrostis aquatica</i>	県内では溜め池の推移帯にわずかに生 育していて、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	イネ	イネ	コゴメカゼクサ <i>Eragrostis japonica</i>	かつては3箇所に記録があるが、最近 の生育地は少なく、個体数もわずかであ る。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	イネ	イネ	ウンヌケ <i>Eulalia speciosa</i>	過去の記録地の近くで生育が確認され た。	絶滅	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	イネ	イネ	チイサンウシノケグサ <i>Festuca chiisanensis</i>	県内では高山の岩場にわずかに生育し ているが、個体数は極めて少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	イネ	イネ	イブキトボシガラ <i>Festuca parvigluma</i> var. <i>breviaristata</i>	県内の生育地は極めて少なく、生育地 はニホンジカの食害の深刻な地域であ るため、その影響を受けて減少してい る。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	イネ	イネ	アズマガヤ <i>Hystrix duthiei</i> subsp. <i>longearistata</i>	県内の数箇所に記録があるが、現存地 の情報は極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	イネ	イネ	カリヤスモドキ <i>Miscanthus oligostachyus</i> var. <i>oligostachyus</i>	県内では1箇所に生育し個体数も少な い。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	イネ	イネ	キダチノネズミガヤ <i>Muhlenbergia ramosa</i>	県内では1箇所のみで生育が知られ、 個体数も少ない。			
絶滅危惧IA類	イネ	イネ	タキキビ <i>Phaenosperma globosum</i>	県内では1箇所にのみ生育し個体数も 少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ケシ	ケシ	シマキケマン <i>Corydalis balansae</i>	生育場所は海岸の一部に限られ、個体 数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ケシ	ケシ	ミヤマキケマン <i>Corydalis pallida</i> var. <i>tenuis</i>	生育地は県内の1地域に限られ、個体 数も減少している。			
絶滅危惧IA類	ケシ	ケシ	ヤマブキソウ <i>Hylomecon japonica</i>	県内の生育地は極めて少なく、採取され て個体数は減少している。	絶滅危惧I類		セリバヤマブキソウf. <i>dissectum</i> 、ホソバヤマブキソウ f. <i>lanceolatum</i> を含める。
絶滅危惧IA類	キンポウゲ	キンポウゲ	アズマイチゲ <i>Anemone raddeana</i>	新たな生育地が見つかり、詳細な調査 の結果、周辺の他所にも存続しているこ とが確認された。	絶滅		
絶滅危惧IA類	キンポウゲ	キンポウゲ	レンゲシヨウマ <i>Anemonopsis macrophylla</i>	県内では1箇所のみで生育し、採取やニ ホンジカの食害で絶滅寸前である。	絶滅危惧I類		県指定希少野生生物(H.19)

カテゴリー	科名		種名	理由	備考			
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項	
絶滅危惧IA類	キンポウゲ	キンポウゲ	コウヤハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>obvallata</i>	県内の生育地は限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IA類	
絶滅危惧IA類	キンポウゲ	キンポウゲ	シコクハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>shikokiana</i>	県内の生育地は限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	キンポウゲ	キンポウゲ	シコクバイカオウレン	<i>Coptis quinquefolia</i> var. <i>shikokumontana</i>	県内での生育は限られていて、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キンポウゲ	キンポウゲ	コウヤシロカネソウ	<i>Dichocarpum numajirianum</i>	県内の生育は1箇所のみで、最近では確認できない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	キンポウゲ	キンポウゲ	ミスミソウ	<i>Hepatica nobilis</i> var. <i>japonica</i>	県内の生育地は限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	ケスハマソウf. <i>pubescens</i> 、スハマソウf. <i>variegata</i> を含める。
絶滅危惧IA類	キンポウゲ	キンポウゲ	オキナグサ	<i>Pulsatilla cernua</i>	県内の生育地は極めて少なく、採取や自然遷移などで減少した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	キンポウゲ	キンポウゲ	ヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i> var. <i>ternatus</i>	生育地は極めて少なく、1箇所は工事により絶滅した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	キンポウゲ	キンポウゲ	マンセンカラマツ	<i>Thalictrum aquilegifolium</i> var. <i>sibiricum</i>	県内の生育はまれで、近年ニホンジカの食害で激減した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	キンポウゲ	キンポウゲ	モミジカラマツ	<i>Trautvetteria carolinensis</i> var. <i>japonica</i>	県内では1箇所のみで生育し、個体数も少ない。ニホンジカの食害を受けるため防護柵を設置している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	マンサク	マンサク	コウヤミズキ	<i>Corylopsis gotoana</i> var. <i>gotoana</i>	県内では1地域のみで生育し、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	スグリ	ユキノシタ	ヤシヤビシヤク	<i>Ribes ambiguum</i> var. <i>ambiguum</i>	樹幹に着生するが、着生母樹の減少で減少した。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IA類	スグリ	ユキノシタ	トガスグリ	<i>Ribes sachalinense</i>	県内の生育地は極めて少なく、剣山ではニホンジカの摂食圧の影響で群落が衰退している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	スグリ	ユキノシタ	スグリ	<i>Ribes sinanense</i>	山地の1箇所を確認され、個体数も極めて少ない。			
絶滅危惧IA類	ユキノシタ	ユキノシタ	ツルネコノメソウ	<i>Chrysosplenium flagelliferum</i>	生育地は限られていて、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ユキノシタ	ユキノシタ	ヒメオオイワボタン	<i>Chrysosplenium pseudofauriei</i> var. <i>nipponense</i>	生育場所は1地域に限られ、自然遷移などで個体数が減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ユキノシタ	ユキノシタ	トゲミツクシネコノメ	<i>Chrysosplenium rhabdospermum</i> var.	県内の生育地は極めて少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IA類	ユキノシタ	ユキノシタ	ワタナベソウ	<i>Peltoboykinia watanabei</i>	生育場所は極めて少なく、道路工事の影響やニホンジカの食害などで、個体数は激減している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ユキノシタ	ユキノシタ	ダイモンジソウ	<i>Saxifraga fortunei</i> var. <i>alpina</i>	県内の生育場所は極めて少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ユキノシタ	ユキノシタ	クロクモソウ	<i>Saxifraga fusca</i> var. <i>kikubiki</i>	県内の生育地は極めて限られていて、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ユキノシタ	ユキノシタ	ズダヤクシュ	<i>Tiarella polyphylla</i>	県内の生育地は剣山のみで、ニホンジカの摂食圧や踏みつけにより、激減している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ベンケイソウ	ベンケイソウ	キリンソウ	<i>Phedimus aizoon</i> var. <i>floribundus</i>	県内の生育地は極めて限られ、採取などにより減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ベンケイソウ	ベンケイソウ	ヒメキリンソウ	<i>Phedimus sikokianus</i>	県内の生育地は極めて少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	ベンケイソウ	ベンケイソウ	メノマンネングサ	<i>Sedum japonicum</i> var. <i>japonicum</i>	生育場所は限られていて、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ベンケイソウ	ベンケイソウ	ヤハズマンネングサ	<i>Sedum tosaense</i>	県内の生育地、個体数ともに極めて少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ベンケイソウ	ベンケイソウ	アズマツメクサ	<i>Tillaea aquatica</i>	生育場所は極めて少なく、除草剤や遷移で減少している。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IA類	アリノトウグサ	アリノトウグサ	オグラノフサモ <i>Myriophyllum oguraense</i>	生育地の溜め池の水質汚濁と改修などで個体数は激減した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	アリノトウグサ	アリノトウグサ	フサモ <i>Myriophyllum verticillatum</i>	県内の生育地はごく少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	マメ	マメ	タヌキマメ <i>Crotalaria sessiliflora</i>	生育地は湿地やその周辺の草地に限られていて、自然遷移や除草作業などで減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	マメ	マメ	マキエハギ <i>Lespedeza virgata</i>	県内の生育地は極めて少なく、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	マメ	マメ	シバナム <i>Smithia ciliata</i>	県内の生育地は1箇所に知られるのみで、耕作地に接して人為的な影響を受けやすい。	絶滅危惧I類	情報不足	
絶滅危惧IA類	マメ	マメ	ヨツバハギ <i>Vicia nipponica</i> var. <i>nipponica</i>	県内の生育地は1箇所に現存が確認されていて、個体数もわずかである。	情報不足		
絶滅危惧IA類	ヒメハギ	ヒメハギ	ヒナノキンチャク <i>Polygala tatarinowii</i>	県内の生育地は1箇所のみが知られ、生育環境の自然遷移、ニホンジカの食害などで減少した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	バラ	バラ	オオヤマザクラ <i>Cerasus sargentii</i> var. <i>sargentii</i>	県内の生育地はごく限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		オオヤマザクラとされたものに他種が混同されていないかを要検討。
絶滅危惧IA類	バラ	バラ	ハクロバイ(ギンロバイ) <i>Dasiphora fruticosa</i> var. <i>mandshurica</i>	県内の生育地はごく限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	バラ	バラ	シコクシモツケソウ <i>Filipendula tsuguwoi</i>	県内での生育は1地域のみで、個体数も少なく、ニホンジカの摂食圧を受けている。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	バラ	バラ	ヒメヘビイチゴ <i>Potentilla centigrana</i>	山地の3箇所で確認されていたが、1箇所は絶滅し、他の場所でも減少している。			
絶滅危惧IA類	バラ	バラ	ミツモトソウ <i>Potentilla cryptotaeniae</i>	県内の生育地は極めて少なく、個体数もわずかである。	情報不足		
絶滅危惧IA類	バラ	バラ	タカネバラ <i>Rosa nipponensis</i>	県内の生育地は1箇所に限られ、ニホンジカの摂食圧を受けている。	絶滅危惧I類		県指定希少野生生物(H.20)
絶滅危惧IA類	グミ	グミ	コウヤグミ <i>Elaeagnus numajiriana</i>	これまで記録されている生育地のものは全て誤認で、現存地は極めて少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IA類	クロウメモドキ	クロウメモドキ	ハマナツメ <i>Paliurus ramosissimus</i>	県内の生育地は数箇所にしか知られておらず個体数も少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	イラクサ	イラクサ	タチゲヒカゲミズ <i>Parietaria micrantha</i> var. <i>coreana</i>	県内には記録が無かったが、最近生育が確認された。個体数は少ない。		絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	イラクサ	イラクサ	コパノイラクサ <i>Urtica laetevirens</i>	県内での分布は石灰岩地に限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ニシキギ	ニシキギ	ヒゼンマユミ <i>Euonymus chibae</i>	2010年の調査により、過去に記録されている生育地で現存が確認された。人家にも植栽されている。	絶滅	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	ニシキギ	ニシキギ	ヒロハツリバナ <i>Euonymus macropterus</i>	生育地、個体数とも極めて少ない上に、ニホンジカの剥皮被害により、さらに減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ニシキギ	ユキノシタ	シラヒゲソウ <i>Parnassia foliosa</i> var. <i>foliosa</i>	生育場所は極めて少なく、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	カタバミ	カタバミ	ミヤマカタバミ <i>Oxalis griffithii</i>	山地に生育しているが、生育場所は限られ、個体数も少ない。			
絶滅危惧IA類	カタバミ	カタバミ	オオヤマカタバミ <i>Oxalis obtriangulata</i>	県内の生育地は極めて少なく、個体数もごくわずかである。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IA類	トウダイグサ	トウダイグサ	タカトウダイ <i>Euphorbia lasiocaula</i> var. <i>lasiocaula</i>	県内の生育地は極めて少なく、自然遷移の進行や工事のために減少し、個体数は極めて少ない。	情報不足		
絶滅危惧IA類	スマレ	スマレ	キバナノコマノツメ <i>Viola biflora</i> var. <i>biflora</i>	県内の生育地は極めて限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	スマレ	スマレ	ヒトツバエゾスマレ <i>Viola eizanensis</i> var. <i>simplicifolia</i>	県内の生育地は限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		ナルカミスミレf. <i>leucantha</i> を含む。
絶滅危惧IA類	スマレ	スマレ	オオタチツボスマレ <i>Viola kusanoana</i>	県内の生育地は限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	スマレ	スマレ	ホソバシロスマレ <i>Viola patrinii</i> var. <i>angustifolia</i>	生育地、個体数とも少ない。		絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	スマレ	スマレ	ナガハシスマレ <i>Viola rostrata</i>	県内の生育地は1箇所に限られ、個体数も少ない。	情報不足		
絶滅危惧IA類	スマレ	スマレ	ミヤマスマレ <i>Viola selkirkii</i>	県内の生育地は1箇所しか知られておらず、ニホンジカの食害を受けている場所である。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	スマレ	スマレ	スマレサイシン <i>Viola vaginata</i> var. <i>variegata</i>	県内の生育地は1箇所しか知られておらず、個体数もごく少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	オトギリソウ	オトギリソウ	アゼオトギリ <i>Hypericum oliganthum</i>	生育場所は限られ、工事や自然遷移により激減している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	ミソハギ	ミソハギ	エゾミソハギ <i>Lythrum salicaria</i>	県内の生育地は数箇所に限られ、個体数も減少傾向にある。	絶滅危惧I類		エゾミソハギとは一致せず、ケナシエゾミソハギやメミソハギの可能性を要検討。
絶滅危惧IA類	ミソハギ	ミソハギ	ミズキカシグサ <i>Rotala rosea</i>	県内の生育地は極めて限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ミソハギ	ヒシ	オニビシ <i>Trapa natans</i> var. <i>natans</i>	これまで知られている2箇所の生育地の内、1箇所では発生が認められなくなっている。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ミカン	ミカン	タチバナ <i>Citrus tachibana</i>	生育地は限られていて、個体数も少ない。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IA類	ジンチョウゲ	ジンチョウゲ	シマサクラガンピ <i>Diplomorpha pauciflora</i> var. <i>yakushimensis</i>	県内の生育地は極めて限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	アブラナ	アブラナ	ハクサンハタザオ <i>Arabidopsis halleri</i> subsp. <i>gemmifera</i> var. <i>senanensis</i>	剣山の石灰岩地に生育し、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		ハクサンハタザオとミヤマハタザオとの雑種起源とする研究があり、種名等が変わる可能性がある。
絶滅危惧IA類	アブラナ	アブラナ	スズシロソウ <i>Arabis flagellosa</i>	県内では石灰岩地に生育し、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	アブラナ	アブラナ	ヤマガラシ <i>Barbarea orthoceras</i>	生育場所は限られ、最近ではニホンジカなどの摂食圧を受けている。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	アブラナ	アブラナ	ミツパコンロンソウ <i>Cardamine anemonoides</i>	生育場所は限られていて、遷移により減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	オオバヤドリギ	ヤドリギ	オオバヤドリギ <i>Taxillus yadoriki</i>	県内の生育地は限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	タデ	タデ	ヒメタデ <i>Persicaria erectominor</i>	県内ではアオヒメタデf. <i>viridiflora</i> のみが確認されている。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	タデ	タデ	サイコクヌカボ <i>Persicaria foliosa</i> var. <i>nikaii</i>	県内では稀に生育するが、自然遷移や生育地である溜め池の改変で減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	タデ	タデ	ヌカボタデ <i>Persicaria taquetii</i>	生育地は新産地の1箇所に限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	これまで記録されていたものは他種の誤認であった。
絶滅危惧IA類	モウセンゴケ	モウセンゴケ	イシモチソウ <i>Drosera peltata</i> var. <i>nipponica</i>	生育地、個体数ともに減少し、絶滅の危険性が大きい。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IA類	モウセンゴケ	モウセンゴケ	コモウセンゴケ <i>Drosera spathulata</i>	県内の生育地は1地域に限られ、自然遷移により減少している。	絶滅危惧I類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IA類	ナデシコ	ナデシコ	タチハコベ <i>Arenaria trinervia</i>	三好市に記録されている。最近、県南で新たな生育地が確認された。個体数はわずかである。	情報不足	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ナデシコ	ナデシコ	テバコマンテマ <i>Silene yanoi</i>	県内では1箇所だけに生育し、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ヒユ	ヒユ	ヤナギイノコヅチ <i>Achyranthes longifolia</i>	生育場所が限られ、個体数も減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ヒユ	アカザ	マツナ <i>Suaeda glauca</i>	県内の生育地は極めて少なく、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	アジサイ	ユキノシタ	キレンゲショウマ <i>Kirengeshoma palmata</i>	生育地は剣山の石灰岩地に限られ、ニホンジカの摂食圧を強く受け、防鹿柵で保護している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	県指定希少野生生物(H.19)
絶滅危惧IA類	サクラソウ	サクラソウ	ユキワリソウ <i>Primula farinosa</i> var. <i>modesta</i>	最近新しい生育地が見出されているが、分布は限られていて、園芸用に採取されやすい。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	サクラソウ	サクラソウ	シコクカッコソウ <i>Primula kisoana</i> var. <i>shikokiana</i>	県内の分布は限られていて、園芸用採取やイノシシなどの野生動物による被害で減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	サクラソウ	サクラソウ	イワザクラ <i>Primula tosaensis</i> var. <i>tosaensis</i>	県内の生育地は限られていて、園芸用に採取されて減少している。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IA類	イワウメ	イワウメ	イワカガミ <i>Schizocodon soldanelloides</i> var. <i>soldanelloides</i>	県内では極めてまれな植物である上に、生育環境の変化や園芸採取などで減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ツツジ	ツツジ	ハクサンシャクナゲ <i>Rhododendron brachycarpum</i> var. <i>brachycarpum</i>	生育地は県内の高山の数箇所に限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	アカネ	アカネ	シロバナイナモリソウ <i>Pseudopyxis heterophylla</i>	生育地は1地域だけに限られ、個体数もわずかである。			
絶滅危惧IA類	アカネ	ヤマトグサ	ヤマトグサ <i>Theligonum japonicum</i>	生育場所は限られていて個体数も多くない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	リンドウ	リンドウ	コケリンドウ <i>Gentiana squarrosa</i>	県内の生育地は1箇所のみで、工事により絶滅寸前になっている。			
絶滅危惧IA類	リンドウ	リンドウ	ホソバノツルリンドウ <i>Pterygocalyx volubilis</i>	県内には1箇所に生育地が記録されていたが、その後、新産地が1箇所確認された。しかし、個体数はごくわずかである。	情報不足	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	リンドウ	リンドウ	イヌセンブリ <i>Swertia tosaensis</i>	県内の生育地は限られていて、現在は数箇所しか現存していない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	マチン	マチン	アイナエ <i>Mitrasacme pygmaea</i>	県内の分布は極めて少なく、生育地の草地は草刈りや遷移などの不安定な要素がある。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キョウチクトウ	キョウチクトウ	チョウジソウ <i>Amsonia elliptica</i>	県内の生育地は極めて少なく、その内の1箇所は他の植物の被圧を受けている。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	県指定希少野生生物(H.22)
絶滅危惧IA類	キョウチクトウ	ガガイモ	アオカモメヅル <i>Vincetoxicum ambiguum</i>	県内の生育地は極めてわずかで、開発などにより減少し、個体数もごく少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キョウチクトウ	ガガイモ	フナバラソウ <i>Vincetoxicum atratum</i>	現存している生育地や個体数は極めてわずかになっている。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	キョウチクトウ	ガガイモ	タチカモメヅル <i>Vincetoxicum glabrum</i>	県内の分布は極めて少なく、生育場所の遷移の進行により減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キョウチクトウ	ガガイモ	ツクシガシワ <i>Vincetoxicum macrophyllum</i> var. <i>macrophyllum</i>	もともと希少な種で、個体数は極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キョウチクトウ	ガガイモ	スズサイコ <i>Vincetoxicum pycnostelma</i>	県内では工事や自然遷移などで減少し、個体数は少ない。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IA類	ナス	ナス	メジロホオズキ <i>Lycianthes biflora</i>	県内の生育地は極めて少なく、自然遷移により個体数が減少している。			
絶滅危惧IA類	ナス	ナス	ヤマホオズキ <i>Physalistrum chamaesarachoides</i>	現存地は1箇所のみで、他地域からの確認情報はほとんど得られなくなっている。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	ナス	ナス	アオホオズキ <i>Physalistrum japonicum</i>	県内の分布は極めて少なく、個体数もごくわずかである上に、ニホンジカの食害を受けている。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	モクセイ	モクセイ	ハシロイ <i>Syringa reticulata</i> var. <i>reticulata</i>	県内の分布は少なく、生育地はニホンジカの食害が深刻な地域にある。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	イワタバコ	イワタバコ	シシンラン <i>Lysionotus pauciflorus</i>	県内の生育地は限られていて、個体数も少なく、園芸用に採取されて減少した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	イワタバコ	イワタバコ	イワギリソウ <i>Opithandra primuloides</i>	県内の生育地は限られていて、園芸用に採取されて減少した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	オオバコ	アワゴケ	アワゴケ <i>Callitriche japonica</i>	県内の分布は少なく、生育地の環境が不安定で消滅することが多い。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	オオバコ	ゴマノハグサ	オオアブノメ <i>Gratiola japonica</i>	県内では主にハス田に生育しているが、発生場所は極めて少なく、年により個体数の変動が大きい。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	オオバコ	ゴマノハグサ	スズカケソウ <i>Veronicastrum villosulum</i>	県内の生育地は国内唯一と考えられている。地域の2校の小学校が栽培し、保存している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IA類	県指定希少野生生物(H.19)
絶滅危惧IA類	シソ	クマツヅラ	ピロードムラサキ <i>Callicarpa kochiana</i>	生育地は県南に限られ、個体数もわずかである。		絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	シソ	クマツヅラ	トサムラサキ <i>Callicarpa shikokiana</i>	生育地は県南に限られ、個体数もわずかである。		絶滅危惧II類	数個体が確認され、成木2本はシロバナトサムラサキf. <i>albiflora</i> で、他はすべて幼木。
絶滅危惧IA類	シソ	シソ	ジャコウソウ <i>Chelonopsis moschata</i>	県内の分布は限られていて、ニホンジカの食害により減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	シソ	シソ	アシタカジャコウソウ <i>Chelonopsis yagiharana</i>	県内の生育地は1箇所に限られているが、ニホンジカの食害により絶滅の危機にある。			
絶滅危惧IA類	シソ	シソ	ヤマクルマバナ(エゾクルマバナ) <i>Clinopodium chinense</i> subsp. <i>glabrescens</i>	県内の生育地は限られていて、個体数も少ない。	情報不足		
絶滅危惧IA類	シソ	シソ	オオヤマジソ <i>Mosla japonica</i> var. <i>hadae</i>	生育環境は不安定な造成地で、個体数も多くない。		絶滅危惧IA類	
絶滅危惧IA類	シソ	シソ	ヤマジソ <i>Mosla japonica</i> var. <i>japonica</i>	県内の分布は極めて少なく、個体数も減少している。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IA類	シソ	シソ	ミズトラノオ <i>Pogostemon yatabeanus</i>	県内の生育地は限られていて、湿地等の開発により急激に減少した。復元のために植栽された場所もある。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	シソ	シソ	ケブカアキノタムラソウ <i>Salvia japonica</i> f. <i>lanuginosa</i>	県内の分布は少なく、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		品種とされているが、兵庫県、岡山県などにも分布し、種の再検討が必要。
絶滅危惧IA類	シソ	シソ	ハルノタムラソウ <i>Salvia ranzaniana</i>	県内の分布は稀で個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	シソ	シソ	コナミキ <i>Scutellaria guillelmii</i>	生育地は海岸に近く、工事などによる生育環境の改変があれば消滅の危険性が高い。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	シソ	シソ	ハナタツナミソウ <i>Scutellaria iyoensis</i>	県内では生育地が限られ、個体数も少なく、園芸用採取や自然遷移によって減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	シソ	シソ	ヤマタツナミソウ <i>Scutellaria pekinensis</i> var. <i>transitra</i>	生育地は1箇所が知られるのみで、個体数もわずかである。			

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IA類	シソ	シソ	ケミヤマナミキ <i>Scutellaria shikokiana</i> var. <i>pubicaulis</i>	県内の生育は極めてまれで、個体数もごく少ない。		絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	シソ	シソ	ミヤマナミキ <i>Scutellaria shikokiana</i> var. <i>shikokiana</i>	県内の生育場所は少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	シソ	シソ	ナミキソウ <i>Scutellaria strigillosa</i>	県内の生育地は2箇所が知られていたが、1箇所では消滅し、もう1箇所も工事のために激減した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ハマウツボ	ゴマノハグサ	トサコゴメグサ <i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>iinumae</i> var. <i>makinoi</i>	県内の分布は極めて少なく、かつての生育地は開発されたり植林地に改変されたりして減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ハマウツボ	ゴマノハグサ	ナヨナヨコゴメグサ <i>Euphrasia microphylla</i>	県内の生育地は極めて限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ハマウツボ	ゴマノハグサ	クチナシグサ <i>Monochasma sheareri</i>	県内の分布は極めて少なく、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ハマウツボ	ハマウツボ	ハマウツボ <i>Orobanche coerulescens</i>	県内では河川敷などに生育し、生育地は極めて少なく、河川の氾濫などで個体数は減少した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ハマウツボ	ハマウツボ	キヨシミウツボ <i>Phacellanthus tubiflorus</i>	県内の生育地は少なく、発生場所や個体数には変動があるが、以前より減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ハマウツボ	ゴマノハグサ	ヒキヨモギ <i>Siphonostegia chinensis</i>	県内の分布は極めて稀で、最近の確認情報もほとんど得られない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	タヌキモ	タヌキモ	ムシトリスミレ <i>Pinguicula vulgaris</i> var. <i>macroceras</i>	県内の生育地は1箇所のみで、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	タヌキモ	タヌキモ	ノタヌキモ <i>Utricularia aurea</i>	県内の生育地は1箇所のみが知られ、個体数は多いが、生育場所の水質は悪化している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	タヌキモ	タヌキモ	ホザキノミミカキグサ <i>Utricularia caerulea</i>	県内の生育場所は極めて少なく、自然遷移の進行で個体数が減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キキョウ	キキョウ	フクシマシャジン <i>Adenophora divaricata</i>	県内の生育地は1箇所が知られているが、園芸用採取やニホンジカの食害による環境の荒廃で消滅状態である。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キキョウ	キキョウ	イシダテホタルブクロ <i>Campanula punctata</i> var. <i>kurokawae</i>	生育地は1箇所、園芸採取やニホンジカの食害で個体数は激減した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キキョウ	キキョウ	ツルギキョウ <i>Codonopsis javanica</i> subsp. <i>japonica</i>	県内の生育地は少なく、生育環境の変化で個体数の減少が著しい。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	キキョウ	キキョウ	サワギキョウ <i>Lobelia sessilifolia</i>	現存地は1箇所、高冷地の湿地の開発、道路工事、自然遷移などで、個体数は極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ミツガシワ	ミツガシワ	ヒメシロアサザ <i>Nymphoides coreana</i>	過去に記録されている場所は開発や他の植物の被圧などで消滅し、現在は新たに確認された2箇所のみで存続している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	ミツガシワ	ミツガシワ	ガガブタ <i>Nymphoides indica</i>	現在の生育地は2箇所のみで知られているが、内、1箇所はハスの繁殖により消滅状態である。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IA類	ミツガシワ	ミツガシワ	アサザ <i>Nymphoides peltata</i>	生育地は極めて少なく、他の植物との競争により減少している。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IA類	キク	キク	カワラハハコ <i>Anaphalis margaritacea</i> subsp. <i>yedoensis</i>	県内の生育地は少なく、生育地は河川の氾濫源などであるため、台風などの影響で減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キク	キク	ヤハズハハコ <i>Anaphalis sinica</i> var. <i>sinica</i>	生育地は極めて少なく、薬用・園芸採取などで減少した。	絶滅危惧I類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IA類	キク	キク	ワタヨモギ <i>Artemisia gilvescens</i>	生育地は市街地に近いため、埋め立てや除草などで減少した。またヨモギとの自然交雑も見られる。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	キク	キク	ゴマナ <i>Aster glehnii</i> var. <i>hondoensis</i>	県内の生育地は極めて少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キク	キク	コモノギク <i>Aster komonoensis</i>	生育地は極めて少なく、ニホンジカの食害で激減した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キク	キク	ミヤマヨメナ <i>Aster savatieri</i> var. <i>savatieri</i>	県内の生育地は2箇所、個体数も少なく、園芸用採取や生育地の環境悪化などで減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キク	キク	オケラ <i>Atractylodes ovata</i>	現存地は1箇所のみが知られていて、個体数もごくわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キク	キク	コバナガンクビソウ <i>Carpesium faberi</i>	県内の生育地は少なく、ニホンジカの摂食圧を強く受けている。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	キク	キク	ツルギカンギク <i>Chrysanthemum indicum</i> var. <i>tsurugisanense</i>	剣山の石灰岩地に生育し、一部はニホンジカの食害も認められ、個体数もわずかである。	地域個体群		剣山が基準産地で、剣山以外の類似種は分類学的に種々の見解があるので含めていない。
絶滅危惧IA類	キク	キク	モリアザミ <i>Cirsium dipsacolepis</i> var. <i>dipsacolepis</i>	県内の生育地は限られていて、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キク	キク	ギョウジャアザミ <i>Cirsium gyojanum</i>	生育地は極めて少なく、ニホンジカの食害により減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キク	キク	イシダテアザミ <i>Cirsium ishidadense</i>	県内の生育地は1箇所、個体数も多くないが、ニホンジカの食害によりさらに減少している。	絶滅危惧I類		これまでテリハアザミ <i>C. lucens</i> とされていたもの。
絶滅危惧IA類	キク	キク	ヤナギタンポポ <i>Hieracium umbellatum</i>	生育適地は開発や自然遷移などで減少し、個体数も減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キク	キク	スイラン <i>Hololeion krameri</i>	生育適地の湿地は開発や自然遷移で減少し、個体数も減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キク	キク	ホソバニガナ <i>Ixeridium beauverdianum</i>	県内の分布は極めて少なく、かつての生育地は工事などの影響で消滅した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	キク	キク	コウスユキソウ <i>Leontopodium japonicum</i> var. <i>spatulatum</i>	県内の生育地は1箇所、個体数も少なく、ニホンジカの食害によりさらに減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キク	キク	ミヤマコウモリソウ <i>Parasenecio farfarifolius</i> var. <i>acerinus</i>	生育地、個体数とも少なく、ニホンジカの食害により、さらに減少した。		絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	キク	キク	コウシュウヒゴタイ <i>Saussurea amabilis</i>	県内の生育地は極めて少なく、ニホンジカの食害で減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キク	キク	ミヤコアザミ <i>Saussurea maximowiczii</i>	県内の生育地は1箇所、自然遷移による環境悪化で減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	キク	キク	ヒメヒゴタイ <i>Saussurea pulchella</i>	県内ではこれまでに多くの生育地が記録されているが、現存地は極めて少なく、生育適地の減少で激減した。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	キク	キク	タムラソウ <i>Serratula coronata</i> subsp. <i>insularis</i>	県内の生育地は少なく、自然遷移や開発による環境悪化で個体数は減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	レンブクソウ	レンブクソウ	レンブクソウ <i>Adoxa moschatellina</i> var. <i>moschatellina</i>	現在の生育地は1箇所のみで、ニホンジカの食害で生育場所が荒廃し個体数が減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	レンブクソウ	スイカズラ	ゴマキ <i>Viburnum sieboldii</i> var. <i>sieboldii</i>	生育地は極めて少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	スイカズラ	スイカズラ	ヤマヒョウタンボク <i>Lonicera mochidzukiana</i> var. <i>nomurana</i>	県内の生育地は少なく、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IA類	スイカズラ	スイカズラ	ダイセンヒョウタンボク <i>Lonicera strophiphora</i> var. <i>glabra</i>	県内の生育地は2箇所に知られているが、ニホンジカの食害で個体数が激減した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	スイカズラ	マツムシソウ	タカネマツムシソウ <i>Scabiosa japonica</i> var. <i>alpina</i>	県内では1箇所のみに生育する希少な種で、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	スイカズラ	マツムシソウ	マツムシソウ <i>Scabiosa japonica</i> var. <i>japonica</i>	生育地は極めて少なく、遷移の進行、開墾、園芸採取などで個体数は激減した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	スイカズラ	オミナエシ	カノコソウ <i>Valeriana fauriei</i>	生育地、個体数ともに少ない上に、ニホンジカの食害により減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ウコギ	ウコギ	ウラジロウコギ <i>Eleutherococcus hypoleucus</i>	生育場所は極めて少なく、生育地はニホンジカの食害を強く受けている。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	ウコギ	ウコギ	ミヤマウコギ <i>Eleutherococcus trichodon</i>	県内の生育地は県南の1箇所のみで個体数も少ない。	情報不足		
絶滅危惧IA類	セリ	セリ	ミヤマノダケ <i>Angelica cryptotaeniifolia</i> var. <i>cryptotaeniifolia</i>	県内の生育地は少なく、ニホンジカの食害により減少している。		絶滅危惧IA類	
絶滅危惧IA類	セリ	セリ	トサボウフウ <i>Angelica yoshinagae</i>	生育場所は限られ個体数も少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	セリ	セリ	オニシヤク <i>Anthriscus sylvestris</i> subsp. <i>nemorosa</i>	生育場所は限られていて個体数も少ない。生育地の河川の堤防改修で激減した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	セリ	セリ	ホタルサイコ <i>Bupleurum longiradiatum</i> var. <i>elatius</i>	県内の生育地は石灰岩地に限定され、個体数もわずかである。	情報不足		
絶滅危惧IA類	セリ	セリ	ミシマサイコ <i>Bupleurum stenophyllum</i> var. <i>stenophyllum</i>	県内の生育地は極めて少なく、確認された個体数もわずかである。	情報不足	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	セリ	セリ	ツルギハナウド <i>Heraclium sphondylium</i> var. <i>tsurugisanense</i>	県内の生育地は限られていて、防鹿柵外では、ニホンジカの食害により急激に減少した。	絶滅危惧II類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	セリ	セリ	イブキボウフウ <i>Libanotis ugoensis</i> var. <i>japonica</i>	県内には2箇所の生育地が知られていたが、1箇所からは確認できなくなっている。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	セリ	セリ	ボタンボウフウ <i>Peucedanum japonicum</i> var. <i>japonicum</i>	県内には1箇所しか知られておらず、台風による流失で減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	セリ	セリ	フキヤミツバ <i>Sanicula tuberculata</i>	生育場所は限られ、工事や踏みつけなどの影響で減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	セリ	セリ	ミヤマウイキョウ <i>Tilingia tachiroei</i>	生育場所は剣山に限られ、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ハナヤスリ	ハナヤスリ	シチウハナワラビ <i>Botrychium atrovirens</i>	県南の限られた地域に生育し、個体数も少ない。			
絶滅危惧IB類	ハナヤスリ	ハナヤスリ	エゾフユノハナワラビ <i>Botrychium multifidum</i> var. <i>robustum</i>	生育場所が剣山周辺に限られ、個体数も極めて少ない。ニホンジカ等の摂食圧を受けている。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ハナヤスリ	ハナヤスリ	アカハナワラビ <i>Botrychium nipponicum</i> var. <i>nipponicum</i>	生育確認が数箇所に限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ハナヤスリ	ハナヤスリ	コハナヤスリ <i>Ophioglossum thermale</i> var. <i>nipponicum</i>	県内の生育地は比較的少なく、堤防や道路工事、自然遷移などで減少している。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	ハナヤスリ	ハナヤスリ	ヒロハハナヤスリ <i>Ophioglossum vulgatum</i>	生育場所が限られ、個体数も少なく、生育環境が人為の影響を受けやすい。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	リュウビンタイ	リュウビンタイ	リュウビンタイ <i>Angiopteris lygodiiifolia</i>	生育場所が数箇所に限られ個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ヤブレガサウラボシ	スジヒツツバ	スジヒツツバ <i>Cheiropleuria integrifolia</i>	生育場所は限られ、個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ヘゴ	ヘゴ	クサマルハチ <i>Cyathea hancockii</i>	生育場所が限られ個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IB類	ホングウシダ	ホングウシダ	ハマホラシノブ <i>Sphenomeris biflora</i>	県南の限られた場所に生育し、個体数も多くない。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	イノモトソウ	ホウライシダ	ホウライシダ <i>Adiantum capillus-veneris</i>	生育場所は限られ、個体数も極めて少ない。栽培品の逸出がある。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	イノモトソウ	イノモトソウ	ヤワラハチジョウシダ <i>Pteris natiensis</i>	生育場所が海陽町に限られ個体数も極めて少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IB類	チャセンシダ	チャセンシダ	オクタマシダ <i>Asplenium pseudowilfordii</i>	生育場所は樹幹や岩上などに限られ、個体数も多くない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	チャセンシダ	チャセンシダ	テンリュウヌリトラノオ <i>Asplenium shimurae</i>	新たな生育地が確認されたが、生育地、個体数とも少ない。		絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	イワデンダ	イワデンダ	ミヤコイヌワラビ <i>Athyrium frangulum</i>	県内の生育地は比較的少なく、自然遷移の進行やニホンジカの食害で減少している。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	イワデンダ	イワデンダ	ルリデライヌワラビ <i>Athyrium wardii</i> var. <i>inadae</i>	生育地は限られ、個体数も少ない。ヒロハイスワラビと区別の難しい個体がある。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	イワデンダ	イワデンダ	ハコネシケチシダ <i>Cornopteris christenseniana</i>	県内の生育地は比較的少ない上に、最近ではニホンジカの食害で減少している。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	イワデンダ	イワデンダ	イワヤシダ <i>Diplaziopsis cavaleriana</i>	県内の生育地は比較的限られていて、生育場所によっては個体数が減少している。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	イワデンダ	イワデンダ	ヒロハノコギリシダ <i>Diplazium dilatatum</i> var. <i>dilatatum</i>	主として県南の数箇所に知られ、個体数もわずかである。			
絶滅危惧IB類	イワデンダ	イワデンダ	ニセコクモウクジャク <i>Diplazium virescens</i> var. <i>conterminum</i>	県南の数箇所に生育しているが、個体数はわずかである。			
絶滅危惧IB類	イワデンダ	イワデンダ	イワウサギシダ <i>Gymnocarpium jessoense</i>	生育場所が限られ個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	イワデンダ	イワデンダ	エビラシダ <i>Gymnocarpium oyamense</i>	県内の生育地は比較的少なく、道路の工事や生育環境の悪化などで減少した。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	イワデンダ	イワデンダ	コガネシダ <i>Woodsia macrochlaena</i>	県内の生育地は比較的少なく、道路工事や生育環境の悪化などで個体数も減少している。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	オシダ	オシダ	オトコシダ <i>Arachniodes yoshinagae</i>	生育場所は県南の1地域に限られていて、個体数もそれほど多くない。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	オシダ	オシダ	キヨズミオオクジャク <i>Dryopteris namegatae</i>	生育場所は限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	オシダ	オシダ	ワカナシダ <i>Dryopteris pycnopteroides</i>	県内の数箇所に生育しているが、個体数は少ない。			
絶滅危惧IB類	オシダ	オシダ	ナガサキシダ <i>Dryopteris sieboldii</i>	県南に数箇所、県西部に1箇所です生育が確認されているが、個体数は少ない。			
絶滅危惧IB類	オシダ	ツルキジノオ	ヒロハアツイタ <i>Elaphoglossum tosaense</i>	生育場所は限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	オシダ	ツルキジノオ	アツイタ <i>Elaphoglossum yoshinagae</i>	生育場所は限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	オシダ	オシダ	ホオノカワシダ <i>Nothoperanema shikokianum</i>	県南の限られた地域に生育し、個体数も少ない。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	シノブ	シノブ	ククシノブ <i>Humata repens</i>	生育環境は限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	ウラボシ	ウラボシ	ヌカボシクリハラン <i>Neocheiropteris ningpoensis</i>	生育場所が限られ個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ウラボシ	ウラボシ	ミョウギシダ <i>Polypodium someyae</i>	生育場所が限られ個体数も少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	アワミョウギシダf. <i>awaense</i> を含める。
絶滅危惧IB類	ヒノキ	ヒノキ	ミヤマビャクシン <i>Juniperus chinensis</i> var. <i>sargentii</i>	県内の分布は石灰岩地の岩壁などに限られていて個体数も極めて少ない。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	スイレン	スイレン	オグラコウホネ <i>Nuphar oguraensis</i> var. <i>oguraensis</i>	県内の生育場所は限られ、水路の改修や水質の悪化などで個体数が減少した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	

カテゴリー	科名		種名	理由	備考			
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項	
絶滅危惧IB類	モクレン	モクレン	オオヤマレンゲ	<i>Magnolia sieboldii</i> subsp. <i>japonica</i>	県内の分布は限られていて、ニホンジカによる樹皮の剥皮により多くが枯死し個体数が減少している。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	クスノキ	クスノキ	クロモジ	<i>Lindera umbellata</i> var. <i>umbellata</i>	県内では生育地が限られているまれな植物である。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	サトイモ	サトイモ	ヒガンmamシグサ	<i>Arisaema aequinoctiale</i>	県内の生育地は限られていて、個体数も多くない。	絶滅危惧I類		コウチテンナンショウとされていたが、ヒガンmamシグサの変異内とされた。
絶滅危惧IB類	サトイモ	サトイモ	シコクヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema longipedunculatum</i> var. <i>longipedunculatum</i>	県内の生育地は限られていて、個体数も少ない。園芸用採取、ニホンジカの食害による影響などで減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IB類	トチカガミ	トチカガミ	ヤナギスブタ	<i>Blyxa japonica</i>	県内では湿地や湿原に生育しているが、管理放棄や自然遷移などで減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	トチカガミ	トチカガミ	ヤマトウミヒルモ	<i>Halophila nipponica</i>	県内の海岸の浅海域に点在して生育し、個体数も多くない。	絶滅危惧I類		従来ウミヒウモとされていたもの (Kuo et al. 2006)
絶滅危惧IB類	トチカガミ	イバラモ	ホッスモ	<i>Najas graminea</i>	県内では主に溜め池に生育し、類似種の中では比較的多いが、水質汚染や工事で減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	シバナ	シバナ	シバナ	<i>Triglochin asiatica</i>	県内では3箇所には生育地があるが、内、2箇所には現存している。河川や水路などの工事の影響を受けやすい。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IB類	ヒルムシロ	ヒルムシロ	リュウノヒゲモ	<i>Potamogeton pectinatus</i>	生育地は限られていて、水質汚濁で減少している。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IB類	ヒナノシャクジョウ	ヒナノシャクジョウ	シロシャクジョウ	<i>Burmannia cryptopetala</i>	県内の生育地は限られていて個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ホンゴウソウ	ホンゴウソウ	ホンゴウソウ	<i>Sciaphila nana</i>	県内の生育地は限られていて、森林伐採などで減少した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	ビャクブ	ビャクブ	シコクナベワリ	<i>Croomia kinoshitae</i>	やや標高の高い山地に生育しているが、生育地、個体数ともに少ない。			
絶滅危惧IB類	シュロソウ	ユリ	チャボシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i>	群落の個体数はやや多いが、生育地は限られている。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	シュロソウ	ユリ	クルマバツクバネソウ	<i>Paris verticillata</i>	生育場所、個体数ともに少なく、ニホンジカの食害により減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ユリ	ユリ	トクシマコバイモ	<i>Fritillaria tokushimensis</i>	生育場所は数箇所に限られ、採取や生育環境の悪化により個体数も減少している。			アワコバイモとトサコバイモとの雑種起源とする見解がある。花粉、種子の稔性は良い。
絶滅危惧IB類	ユリ	ユリ	ヤマホトギス	<i>Tricyrtis macropoda</i> var. <i>macropoda</i>	山地に生育しているが、生育場所は限られ、個体数も少ない。			
絶滅危惧IB類	ユリ	ユリ	エンレイソウ	<i>Trillium apetalon</i>	県内の生育地は極めて少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ラン	ラン	ヒナラン	<i>Amitostigma gracile</i>	県内の生育地は限られていて、園芸用採取、道路工事などにより減少した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IB類	ラン	ラン	ホソバシユンラン	<i>Cymbidium goeringii</i> var. <i>gracillimum</i>	県内の生育地は極めて少なく、園芸採取により個体数は減少した。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	ラン	ラン	クロヤツシロラン	<i>Gastrodia pubilabiata</i>	県内での生育地は限られていて、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ラン	ラン	アケボノシユスラン	<i>Goodyera foliosa</i> var. <i>laevis</i>	最近、現存地が数箇所確認されたが、県内の生育地は少なく、個体数もわずかである。	情報不足		
絶滅危惧IB類	ラン	ラン	ムヨウラン	<i>Lecanorchis japonica</i> var. <i>japonica</i>	県内ではかなり広範囲に分布するが、個体数は少なく、生育場所の林床の環境変化で減少している。	絶滅危惧I類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IB類	ラン	ラン	フガクスズムシソウ <i>Liparis fujisanensis</i>	県内では主に高山の樹木に着生しているが、園芸採取や樹木の枯死などで減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	ラン	ラン	ジガバチソウ <i>Liparis krameri</i> var. <i>krameri</i>	県内の生育地は極めて少なく、園芸採取や生育地の環境の悪化により個体数は減少した。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	ラン	ラン	アオフタバラン <i>Neottia makinoana</i>	生育地はやや限られていて、生育地の環境悪化などで個体数も減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ラン	ラン	ウチョウラン <i>Ponerorchis graminifolia</i> var. <i>graminifolia</i>	過去には園芸用採取で個体数が急激に減少した。最近では採取圧が緩和しているが個体数は回復していない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	ラン	ラン	ヒトツボクロ <i>Tipularia japonica</i> var. <i>japonica</i>	県内の分布は少なく、個体数もわずかで、園芸用採取、生育地の環境悪化などで減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	キンバイザサ	キンバイザサ	コキンバイザサ <i>Hypoxis aurea</i>	県内の生育は限られていて、生育地の草原の自然遷移などで減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	キジカクシ	ユリ	カンザシギボウシ(イヤギボウシ) <i>Hosta capitata</i>	生育地は限られ、園芸用採取や植林による環境悪化、ニホンジカの食害などで減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	キジカクシ	ユリ	オオバジャノヒゲ <i>Ophiopogon planiscapus</i>	県内での確認場所は極めて少なく、個体数もごくわずかである。			類似する他種と誤認されている場合がある。
絶滅危惧IB類	ミズアオイ	ミズアオイ	ミズアオイ <i>Monochoria korsakowii</i>	県内では主にハス田に生育していて、耕作地であるため、年によって発生する個体数の変動が大きい。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IB類	ホシクサ	ホシクサ	イトイヌノヒゲ <i>Eriocaulon decemflorum</i>	県内の生育地は少なく、自然遷移の進行や湿地の開発などによる生育適地の減少で個体数は減少した。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	クロカワズスゲ <i>Carex arenicola</i>	県内の生育地は限られていて、個体数も多くない。放棄水田の畦などでは、管理放棄により減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	オオナキリスゲ <i>Carex autumnalis</i>	県内の生育地は少なく、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ヤマジスゲ <i>Carex bostrychostigma</i>	県内の生育地は少なく、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	カタスゲ <i>Carex macrandrolepis</i>	県内の生育地は少なく、個体数も多くない。河川敷の一部の自生地では消滅した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	キシウナキリスゲ <i>Carex nachiana</i>	生育地は限られていて、個体数も少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ササノハスゲ <i>Carex pachygyna</i>	県内の生育地は少なく、自然遷移の進行や生育環境の変化により個体数は減少している。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	フサナキリスゲ <i>Carex teinogyna</i>	県内の生育地は限られていて、自然遷移の進行などで個体数は減少した。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	チシママツパイ <i>Eleocharis acicularis</i> var. <i>acicularis</i>	生育地はハス田とその周辺部に限られていて、耕作地であるため生育地や個体数は不安定である。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	マシカクイ <i>Eleocharis tetraquetra</i> var. <i>tetraquetra</i>	県内の生育地は少なく、自然遷移の進行や湿地の開発などにより個体数は減少した。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ナガボテンツキ <i>Fimbristylis longispica</i> var. <i>longispica</i>	県内の生育地は少なく、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ハタバカンガレイ <i>Schoenoplectus gemmifer</i>	県内の河川で生育が確認され、個体数もやや多い。		絶滅危惧II類	

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IB類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ヒメカンガレイ <i>Schoenoplectus mucronatus</i> var. <i>mucronatus</i>	県内の生育地は限られていて、溜め池や放棄水田などの生育地は遷移の進行により減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ノグサ <i>Schoenus apogon</i>	県内の生育地は開発や自然遷移の進行などで減少し、個体数も激減した。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	マツカサススキ <i>Scirpus mitsukurianus</i>	県内の生育地は限られ、湿地の自然遷移の進行で生育環境は悪化し、個体数は減少している。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	イネ	イネ	オオボケガヤ <i>Arundinella riparia</i> subsp. <i>breviaristata</i>	県内の生育地は極めて限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	県内に分布し、これまでミギワトダシバ <i>A. riparia</i> とされたものは、本亜種とされた(茨木靖2006)
絶滅危惧IB類	イネ	イネ	シコクノガリヤス <i>Calamagrostis tashiroi</i> subsp. <i>sikokiana</i>	県内の生育地は限られていて、個体数も少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	従来タシロノガリヤスsubsp. <i>tashiroi</i> とされていた県内のものは、すべてシコクノガリヤスに該当する。
絶滅危惧IB類	イネ	イネ	ミズタカモジ <i>Elymus humidus</i>	生育地は水田の畦や溝などに限られ、圃場整備や水路の工事で減少している。		絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	イネ	イネ	アオウシノケグサ <i>Festuca ovina</i> subsp. <i>coreana</i>	県内の生育地は少なく、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	イネ	イネ	トキワススキ <i>Miscanthus floridulus</i>	県内では数箇所生育している、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		植栽起源の可能性がある(茨木)
絶滅危惧IB類	イネ	イネ	ムカゴツヅリ <i>Poa tuberifera</i>	県内には数箇所生育が知られているが、ニホンジカの食害による生育地の荒廃で減少が著しい。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	イネ	イネ	ヒロハノハネガヤ <i>Stipa coreana</i> var. <i>japonica</i>	県内の生育地は限られていて、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ツヅラフジ	ツヅラフジ	イソヤマアオキ(コウシュウウヤク <i>Cocculus laurifolius</i>	県内では3箇所に生育し、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	キンポウゲ	キンポウゲ	シコクキンポウゲ(コキンポウゲ) <i>Ranunculus japonicus</i> var. <i>rostratus</i>	高山の風衝草地などに生育しているが、生育場所、個体数ともに少ない。			
絶滅危惧IB類	キンポウゲ	キンポウゲ	コゴメカラマツ <i>Thalictrum microspermum</i>	県内では分布が限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	キンポウゲ	キンポウゲ	イシツチカラマツ <i>Thalictrum minus</i> var. <i>yamamotoi</i>	剣山に生育しているものは、イシツチカラマツが多い。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	従来オオカラマツ(コカラマツ) var. <i>spjpellatum</i> とされたもの。
絶滅危惧IB類	キンポウゲ	キンポウゲ	ミヤマカラマツ <i>Thalictrum tuberiferum</i> var. <i>tuberiferum</i>	山地の岩場に生育し、個体数もわずかである。			
絶滅危惧IB類	キンポウゲ	キンポウゲ	タマカラマツ <i>Thalictrum watanabei</i>	生育地が限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	ボタン	ボタン	ベニバナヤマシヤクヤク <i>Paeonia obovata</i>	生育場所は極めて少なく、新産地が見いだされても採取されて激減することが多い。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	ユキノシタ	ユキノシタ	コガネネコノメソウ <i>Chrysosplenium pilosum</i> var. <i>sphaerospermum</i>	生育場所は限られていて、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ベンケイソウ	ベンケイソウ	ミツバベンケイソウ <i>Hylotelephium verticillatum</i> var. <i>verticillatum</i>	県内の分布は少なく、個体数も減少している。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	ベンケイソウ	ベンケイソウ	チャボツメレンゲ <i>Meterostachys sikokianus</i>	県内の生育地は限られていて、採取などにより減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	ブドウ	ブドウ	ケサンカクヅル <i>Vitis flexuosa</i> var. <i>rufo-</i> <i>tomentosa</i>	県内の生育地は極めて限られ、個体数も減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	マメ	マメ	ニワフジ <i>Indigofera decora</i>	県内の生育地は少なく、生育地は人為の影響を受けやすい。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	マメ	マメ	イヌハギ <i>Lespedeza tomentosa</i>	県内の生育地は少なく、自然遷移や工事などで減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IB類	バラ	バラ	ズミ <i>Malus toringo</i> var. <i>torinigo</i>	県内の生育地は限られていて、個体数も多くない。	情報不足		
絶滅危惧IB類	バラ	バラ	オオウラジロノキ <i>Malus tschonoskii</i>	県内の生育場所は少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	バラ	バラ	カワラサイコ <i>Potentilla chinensis</i>	県内の生育地は河川敷に多く、河川工事、洪水、自然遷移の進行等によって減少し、個体数も減少した。	絶滅危惧II類		最近、埋め立て地に多数の個体が出現したが、使用した土砂の埋土種子の発芽によると思われる。
絶滅危惧IB類	バラ	バラ	ウラジロイワガサ <i>Spiraea × hayatae</i>	県内の生育地は限られていて、生育地は不安定な環境である。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	グミ	グミ	クヤママグミ <i>Elaeagnus epitricha</i>	県内の生育地は限られていて、ニホンジカの食害により生育環境が荒廃している。	情報不足	絶滅危惧IA類	
絶滅危惧IB類	クロウメモドキ	クロウメモドキ	キビノクロウメモドキ <i>Rhamnus yoshinoi</i>	生育環境は石灰岩地で個体数も限られている。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	アサ	ニレ	コバノチョウセンエノキ <i>Celtis biondii</i> var. <i>heterophylla</i>	県内の生育地は極めて少なく、新しい生育地も確認されているが、個体数は少ない。	情報不足		
絶滅危惧IB類	クワ	クワ	ケグワ <i>Morus cathayana</i>	県内では分布が限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	イラクサ	イラクサ	ヤナギイチゴ <i>Debregeasia orientalis</i>	県内の海岸の一部に生育し、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	イラクサ	イラクサ	コケミズ <i>Pilea peplodes</i>	山地に岩場などに数箇所が知られるのみで、個体数も多くない。			
絶滅危惧IB類	イラクサ	イラクサ	ソハヤキミズ <i>Pilea swinglei</i>	四国では本県の1地域だけに生育している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	カバノキ	カバノキ	ツノハシバミ <i>Corylus sieboldiana</i> var. <i>sieboldiana</i>	県内では分布が限られ、個体も多くない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	フウロソウ	フウロソウ	ヒメフウロ <i>Geranium robertianum</i>	県内の生育地は限られているが個体数はやや多い。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	アオイ	アオギリ	アオギリ <i>Firmiana simplex</i>	県内の生育地は限られていて個体数も少ない。栽培品の逸出も見られる。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ジンチョウゲ	ジンチョウゲ	チョウセンナニワズ <i>Daphne koreana</i>	県内の生育地は限られていて、個体数も多くない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	ジンチョウゲ	ジンチョウゲ	オニシバリ <i>Daphne pseudomezereum</i>	県内の生育地は限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	アブラナ	アブラナ	シロイヌナズナ <i>Arabidopsis thaliana</i>	生育場所は限られていて、遷移や除草剤で減少の危険性が高い。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	アブラナ	アブラナ	タカチホガラシ <i>Cardamine kiusiana</i>	県内では高山の水湿地や水辺などに生育し、個体数はやや多いが、ニホンジカの食害をうけている。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	アブラナ	アブラナ	イヌナズナ <i>Draba nemorosa</i>	県内の生育場所は少なく、遷移により減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	アブラナ	アブラナ	ハタザオ <i>Turritis glabra</i>	県内の生育場所は限られていて、個体数も多くない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ツチトリモチ	ツチトリモチ	ミヤマツチトリモチ <i>Balanophora nipponica</i>	県内の生育地はそれほど多くないが、ニホンジカの食害等により、宿主の樹木の枯死や林床の荒廃で減少している。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	タデ	タデ	ウナギツカミ <i>Persicaria sagittata</i> var. <i>sibirica</i>	県内の生育地は少なく、新しい生育地も確認されているが、圃場整備や自然遷移の進行で個体数は減少した。	情報不足		アキノウナギツカミの生態型とする見解がある。
絶滅危惧IB類	モウセンゴケ	モウセンゴケ	モウセンゴケ <i>Drosera rotundifolia</i>	県内の生育地は少なく、自然遷移などにより個体数も激減している。	絶滅危惧I類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IB類	ナデシコ	ナデシコ	ヒゲネワチガイソウ <i>Pseudostellaria palibiniana</i>	県内の生育地は限られていて、個体数も少ない。	情報不足		
絶滅危惧IB類	アジサイ	ユキノシタ	ウラジロウツギ <i>Deutzia maximowicziana</i>	過去の生育地の一部は台風で失われ、生育地、個体数ともに減少した。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	サクラソウ	ヤブコウジ	カラタチバナ <i>Ardisia crispa</i> var. <i>crispa</i>	生育地は限られていて園芸用に採取されやすい。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	サクラソウ	サクラソウ	ツマトリソウ <i>Lysimachia europaea</i>	生育場所は限られていて、自然遷移、採取、ニホンジカの食害による環境変化などにより個体数の減少が見られる。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	ツバキ	ツバキ	サザンカ <i>Camellia sasanqua</i>	本来の自生地は1箇所のみで、個体数も少ない。絶滅の危険性はやや少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ヤッコソウ	ラフレシア	ヤッコソウ <i>Mitrastemon yamamotoi</i>	県内の分布は少なく、生育地によっては林床の荒廃が見られ、個体数が減少している。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	ツツジ	ツツジ	サラサドウダン <i>Enkianthus campanulatus</i> var. <i>campanulatus</i>	県内の生育地は限られていて、道路工事の影響やニホンジカによる剥皮で多くが枯死し、個体数は激減した。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	ツツジ	ツツジ	コアブラツツジ <i>Enkianthus nudipes</i>	県内の生育地は少なく、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ツツジ	ツツジ	ヒロハドウダンツツジ <i>Enkianthus perulatus</i> f. <i>japonicus</i>	生育地は蛇紋岩地で開発や園芸採取、ニホンジカの食害などで減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ツツジ	イチヤクソウ	シャクジョウソウ <i>Hypopitys monotropa</i>	生育適地の樹林の伐採や環境悪化により減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ツツジ	ツツジ	ツリガネツツジ(ウスギヨウラク) <i>Rhododendron benhallii</i>	生育地は限られていて、個体数も少なく、ニホンジカの食害を受けている。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	ツツジ	ツツジ	バイカツツジ <i>Rhododendron semibarbatum</i>	山地の稜線の岩場などに生育し、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	クロタキカズラ	クロタキカズラ	クロタキカズラ <i>Hosiea japonica</i>	県内の生育地は限られていて、個体数も多くない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	アカネ	アカネ	エゾノヨツバムグラ <i>Galium kamtschaticum</i> var. <i>kamtschaticum</i>	県内の生育地は高山に限られ、ニホンジカの食害の影響で減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	アカネ	アカネ	ヒロハコンロンカ <i>Mussaenda shikokiana</i>	県内の分布は極めて少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	アカネ	アカネ	オオキヌタソウ <i>Rubia chinensis</i> f. <i>mitis</i>	県内の生育地は限られていて、ニホンジカの食害により減少している。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	リンドウ	リンドウ	ハルリンドウ <i>Gentiana thunbergii</i> var. <i>thunbergii</i>	県内の分布は少なく、近年、開発や遷移により急激に減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	キョウチクトウ	ガガイモ	クサナギオゴケ <i>Vincetoxicum yamanakae</i>	県内の分布は限られていて、個体数も多くない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	ヤマワキオゴケはクサナギオゴケの異名とされた。(Yamashiro et al. 2012)
絶滅危惧IB類	ヒルガオ	ヒルガオ	ハマネナシカズラ <i>Cuscuta chinensis</i>	県内の生育地は極めて少なく、工事や台風などの自然災害による減少が危惧される。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	ナス	ナス	イガホオズキ <i>Physalistrum echinatum</i>	生育地から消滅したところが多く、個体数の減少が著しい。			
絶滅危惧IB類	モクセイ	モクセイ	シマモクセイ(ナタオレノキ) <i>Osmanthus insularis</i> var. <i>insularis</i>	県内では離島の2箇所のみで確認され、個体数もわずかである。			
絶滅危惧IB類	オオバコ	ゴマノハグサ	マルバノサワトウガラシ <i>Deinostema adenocaulum</i>	県南の水田や湿地に稀に生育しているが、圃場整備などの乾田化で減少した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	ゴマノハグサ	ゴマノハグサ	オオヒナノウスツボ <i>Scrophularia kakudensis</i> var. <i>kakudensis</i>	県内の分布は限られていて、個体数も多くない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	シソ	シソ	カワミドリ <i>Agastache rugosa</i>	県内の分布は稀で、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	シソ	シソ	フトボナギナタコウジュ <i>Elsholtzia nipponica</i>	県内の生育地は限られていて、ニホンジカの食害により著しく減少した。	絶滅危惧II類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IB 類	シソ	シソ	マネキグサ <i>Loxocalyx ambiguus</i>	県内の分布は限られていて、最近ではニホンジカの食害で減少している場所が多い。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IB 類	シソ	シソ	セトエゴマ <i>Perilla setoyensis</i>	県内の分布は限られていて、生育環境の変化や工事などで減少した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB 類	シソ	シソ	ミゾコウジュ <i>Salvia plebeia</i>	かつては多く生育していたが、河川工事や自然環境の変化で減少した。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IB 類	シソ	シソ	ヒメナミキ <i>Scutellaria dependens</i>	県内の生育地は少なく、河川工事や水田の畦の除草などで減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB 類	ハマウツボ	ハマウツボ	オオナンバンギセル(ヤマナンバンギセル) <i>Aeginetia sinensis</i>	県内の山地にややまれに生育していて、個体数は少ない。かつての生育適地の一つは植林によって失われた。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB 類	ハマウツボ	ゴマノハグサ	ヤマウツボ <i>Lathraea japonica</i> var. <i>japonica</i>	県内の生育地は少なく、ニホンジカの食害による生育環境の荒廃で減少している。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB 類	ハマウツボ	ゴマノハグサ	オオヒキヨモギ <i>Siphonostegia laeta</i>	県内の生育地は少なく、個体数もわずかである。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB 類	タヌキモ	タヌキモ	イヌタヌキモ <i>Utricularia australis</i>	県内の溜め池や湿地に稀に生育しているが、湿地では他の植物の被圧などで減少している。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IB 類	タヌキモ	タヌキモ	ミミカキグサ <i>Utricularia bifida</i>	県内の生育地はやや限られていて、生育地の工事、水田、湿地などの生育環境の悪化により減少した。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB 類	キツネノマゴ	キツネノマゴ	スズムシバナ <i>Strobilanthes oligantha</i>	県内の分布は極めて少なく、個体数も少ない。かつての生育地の一つは絶滅したため、栽培品を植え戻している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB 類	キキョウ	キキョウ	キキョウ <i>Platycodon grandiflorus</i>	県内の生育地は限られていて、園芸採取や自然遷移などにより減少した。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB 類	キク	キク	ヒロハテイショウソウ <i>Ainsliaea cordifolia</i> var. <i>maruoi</i>	県内の生育地は極めて限られ、個体数も限られていて、生育環境の変化などで個体数が減少している。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB 類	キク	キク	シコクシロギク <i>Aster yoshinaganus</i>	県内の生育地は限られていて、自然遷移の進行、ニホンジカの食害による生育環境の悪化などで減少した。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB 類	キク	キク	ニセツクシアザミ <i>Cirsium pseudosuffultum</i>	県内の生育地は限られていて、ニホンジカの食害を強く受けている。		絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IB 類	キク	キク	クサノオウバノギク <i>Crepidiastrum chelidoniifolium</i>	産地の岩上などに生育しているが、個体数は少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB 類	キク	キク	フジバカマ <i>Eupatorium japonicum</i>	生育場所は少なく、圃場整備や堤防の除草作業、自然遷移などで減少している。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IB 類	キク	キク	ノニガナ <i>Ixeris polycephala</i>	県内の生育地は少なく、自然遷移の進行、工事などで個体数は激減した。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB 類	キク	キク	ネコノシタ <i>Melanthera prostrata</i>	生育地は限られていて、海岸の工事などで個体数は減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB 類	キク	キク	ヒメコウモリソウ <i>Parasenecio shikokianus</i>	県内の生育地は限られていて、ニホンジカの食害による生育地の荒廃や自然遷移の進行などで減少している。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB 類	キク	キク	アキノハハコグサ <i>Pseudognaphalium hypoleucum</i>	県内の生育地は限られていて、道路工事などで生育場所が改変され減少している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IB 類	キク	キク	オオダイトウヒレン <i>Saussurea nipponica</i> subsp. <i>nipponica</i> var. <i>nipponica</i>	県内の生育地は限られていて、ニホンジカの食害、生育地の環境変化などで減少している。	絶滅危惧II類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IB類	キク	キク	オオトウヒレン <i>Saussurea nipponica</i> subsp. <i>svatieri</i> var. <i>robusta</i>	県内の生育地は限られていて、ニホンジカの食害や生育地の環境変化などで減少した。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	キク	キク	ツクシメナモミ <i>Sigesbeckia orientalis</i>	最近、1箇所での生育が確認された。個体数はやや多い。			
絶滅危惧IB類	キク	キク	クマノギク <i>Sphagneticola calendulacea</i>	県内の生育地は少なく、個体数も限られている。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	キク	キク	オヤマボクチ <i>Synurus pungens</i> var. <i>pungens</i>	県内の生育地は限られていて、工事や自然遷移の進行、ニホンジカの食害などで減少している。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	キク	キク	クシバタンポポ <i>Taraxacum pectinatum</i>	最近の調査で新産地が追加されたが、既産地の生育個体数は減少している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧II類	ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ	スギラン <i>Huperzia cryptomerina</i>	生育場所が限られ、個体数も少ないが、新たな生育地が追加された。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧II類	ハナヤスリ	ハナヤスリ	コヒロハハナヤスリ <i>Ophioglossum petiolatum</i>	新たな生育地が確認され、個体数の減少はあまり認められない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧II類	マツバラン	マツバラン	マツバラン <i>Psilotum nudum</i>	生育環境が限定されていて個体数も多くないが、採取圧は緩和されている。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧II類	イノモトソウ	ホウライシダ	エビガラシダ <i>Cheilosoria chusana</i>	生育場所は限られていて、個体数も少ない。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧II類	イノモトソウ	イノモトソウ	ニシノコハチジョウシダ <i>Pteris kiuschiuensis</i>	県内の分布は限られていて、個体数も多くない。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧II類	イノモトソウ	イノモトソウ	アイコハチジョウシダ <i>Pteris laurilvicola</i>	県内の分布は限られていて、個体数も多くない。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧II類	イノモトソウ	イノモトソウ	モエジマシダ <i>Pteris vittata</i>	生育場所が限られ個体数も少なかったが、数箇所での新たな生育地が確認された。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧II類	チャセンシダ	チャセンシダ	ヒノキシダ <i>Asplenium prolongatum</i>	生育場所はやや限られ、個体数も多くないが、生育環境は安定している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧II類	チャセンシダ	チャセンシダ	ホウビシダ <i>Hymenasplenium hondoense</i>	新たな生育地が確認され、生育地、個体数ともに目立った減少は見られない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧II類	ヒメシダ	ヒメシダ	アミシダ <i>Stegnogramma griffithii</i> var. <i>wilfordii</i>	生育場所は限られているが、個体数はやや安定している。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧II類	ヒメシダ	ヒメシダ	ヒメハシゴシダ <i>Thelypteris cystopteroides</i>	生育場所によっては個体数が多い所もあるが、県内の分布は限られている。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧II類	ヒメシダ	ヒメシダ	テツホシダ <i>Thelypteris interrupta</i>	県内の生育地は限られていて、場所によっては自然遷移の進行で個体数が減少している。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧II類	ヒメシダ	ヒメシダ	ミドリヒメワラビ <i>Thelypteris viridifrons</i>	生育場所は限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧II類	イワデンダ	イワデンダ	シマシロヤマシダ <i>Diplazium doederleinii</i>	生育場所、個体数ともに少なかったが、新たな生育地が確認され、個体数も増加した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧II類	イワデンダ	イワデンダ	オオバミヤマノコギリシダ <i>Diplazium hayatae</i>	県南の数地域で生育が確認されているが、個体数は多くない。			
絶滅危惧II類	イワデンダ	イワデンダ	コクモウクジャク <i>Diplazium virescens</i> var. <i>virescens</i>	新たな生育地が確認され、生育地、個体数ともに増加した。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧II類	シシガシラ	シシガシラ	オオカグマ <i>Woodwardia japonica</i> var. <i>japonica</i>	生育場所は限られているが、個体数はやや多い。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧II類	オシダ	オシダ	メヤブソテツ <i>Cyrtomium caryotideum</i>	県内の生育地は分布は主に石灰岩地で、個体数もそれほど多くない。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧II類	オシダ	オシダ	ツクシヤブソテツ <i>Cyrtomium macrophyllum</i> var. <i>tukusicola</i>	生育場所は限られ、個体数も少ない。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧II類	オシダ	オシダ	ヌカイタチシダマガイ <i>Dryopteris simasakii</i> var. <i>simasakii</i>	県内の分布は限られていて、個体数も多くない。	絶滅危惧II類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧Ⅱ類	ウラボシ	ウラボシ	カラクサシダ <i>Pleurosoriopsis makinoi</i>	山地の樹幹や岩場などでコケとともに生育しているが、個体数は多くない。			
絶滅危惧Ⅱ類	ウラボシ	ウラボシ	イワオモダカ <i>Pyrosia hastata</i>	生育場所が限られ個体数も多くないが、新たな生育地が確認され、園芸用の採取圧もやや緩和されている。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	スイレン	スイレン	ヒメコウホネ <i>Nuphar subintegerrima</i>	県内の生育場所は限られていて、水路の改修や水質汚染で減少したが個体数はやや多い。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	コウホネとヒメコウホネの中間型はサイコクヒメコウホネとされる。
絶滅危惧Ⅱ類	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	クロフネサイシン <i>Asarum dimidiatum</i>	県内の生育場所は限られ、個体数も比較的少ない。	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
絶滅危惧Ⅱ類	トチカガミ	イバラモ	サガミトリゲモ <i>Najas chinensis</i>	中山間地の水田などで新たな生育地が確認され、調査が進めば生育地の増加の可能性もある。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
絶滅危惧Ⅱ類	トチカガミ	イバラモ	イバラモ <i>Najas marina</i>	県内の生育地は限られていて、水質汚濁や外来種の繁茂により急激に減少した。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	トチカガミ	トチカガミ	ミズオオバコ <i>Ottelia alismoides</i>	水田、水路、溜め池などにやや稀に生育しているが、生育環境の悪化や工事により減少した。	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
絶滅危惧Ⅱ類	ヒルムシロ	ヒルムシロ	イトモ <i>Potamogeton berchtoldii</i>	溜め池の改修などで減少したが、生育地、個体数ともやや多い。	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	
絶滅危惧Ⅱ類	ヒナノジャクジョウ	ヒナノジャクジョウ	ヒナノジャクジョウ <i>Burmanna championii</i>	植林地の管理不足によって減少している場所があるが、生育地、個体数ともやや多い。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	ラン	ラン	マメヅタラン <i>Bulbophyllum drymoglossum</i>	山地の岩場や樹幹などに生育しているが、生育地は限られ、個体数も多くない。	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
絶滅危惧Ⅱ類	ユリ	ユリ	カタクリ <i>Erythronium japonicum</i>	県内には群生地として知られている場所があるが、生育地は限られている。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	ユリ	ユリ	アワコバイモ <i>Fritillaria muraiana</i>	園芸採取やニホンジカの食害による林床の環境悪化で減少しているが、生育地、個体数とも多い。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
絶滅危惧Ⅱ類	ユリ	ユリ	カノコユリ <i>Lilium speciosum</i>	生育地は限られているが、生育環境の保全対応などで個体数の減少は認められない。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	タキユリ var. <i>clivorum</i> を含める。
絶滅危惧Ⅱ類	ユリ	ユリ	セトウチホトギス <i>Tricyrtis setouchiensis</i>	新たに多くの生育地が確認され、個体数も増加した。	絶滅危惧Ⅰ類		高越山が基準産地である。
絶滅危惧Ⅱ類	ラン	ラン	ムギラン <i>Bulbophyllum inconspicuum</i>	環境調査などで新たな生育地が確認され、個体数も増加した。	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	
絶滅危惧Ⅱ類	ラン	ラン	ミヤマムギラン <i>Bulbophyllum japonicum</i>	生育地が新たに確認されるなど、個体数の減少は認められない。	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	
絶滅危惧Ⅱ類	ラン	ラン	エビネ <i>Calanthe discolor</i> var. <i>discolor</i>	かつて、園芸採取によって個体数が激減したが、その後、各地で生育地が確認されている。	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
絶滅危惧Ⅱ類	ラン	ラン	ナツエビネ <i>Calanthe puberula</i> var. <i>reflexa</i>	生育地は限られ、園芸用などに採取されるが、山地の溪畔などで、新たな生育地が確認されている。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
絶滅危惧Ⅱ類	ラン	ラン	ギンラン <i>Cephalanthera erecta</i> var. <i>erecta</i>	園芸用採取や樹林の伐採などで個体数は減少したが、生育地、個体数ともやや多い。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	ラン	ラン	キンラン <i>Cephalanthera falcata</i>	生育地は限られていて、園芸用の採取や自然遷移、工事などで減少した。	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧Ⅱ類	ラン	ラン	クマガイソウ <i>Cyripedium japonicum</i> var. <i>japonicum</i>	園芸用の採取、ニホンジカの食害により 自生地は減少したが、保護されている場 所も多く、個体数は多い。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
絶滅危惧Ⅱ類	ラン	ラン	セッコク <i>Dendrobium moniliforme</i>	園芸用の採取で減少したが、採取の難 しい岩場や樹上などに残存している。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	ラン	ラン	タシロラン <i>Epipogium roseum</i>	林床の環境変化で発生する個体数は変 動するが、新たな生育地が確認されて いる。	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	
絶滅危惧Ⅱ類	ラン	ラン	ハルザキヤツシロラン <i>Gastrodia nipponica</i>	分布は主に県南の照葉樹林の林床で、 生育場所、個体数共に多い。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
絶滅危惧Ⅱ類	ラン	ラン	ベニシュスラン <i>Goodyera biflora</i>	園芸用採取のより減少傾向にあった が、新たな生育地の確認により、個体数 はやや維持されている。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	ラン	ラン	ミズトンボ <i>Habenaria sagittifera</i>	自然遷移による環境悪化や採取など により減少傾向にあるが、場所によっ ては個体数が比較的多く維持されてい る。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
絶滅危惧Ⅱ類	ラン	ラン	ウスギムヨウラン <i>Lecanorchis kiusiana</i>	樹林の伐採や環境悪化などで減少し たが、生育地、個体数とも比較的多い。	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	
絶滅危惧Ⅱ類	ラン	ラン	フウラン <i>Neofinetia falcata</i>	園芸採取されることが多いが、調査の 進行によって社寺林などの樹幹で多く の生育が確認された。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
絶滅危惧Ⅱ類	ラン	ラン	ヨウラクラン <i>Oberonia japonica</i>	採取や着生している樹木の伐採など で減少しているが、県内には比較的 多くの生育地が確認されている。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	ラン	ラン	オオヤマサギソウ <i>Platanthera sachalinensis</i>	県内の生育地はやや限られているが、 近年は多くの生育地が確認されてい る。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	ラン	ラン	カヤラン <i>Thrixspernum japonicum</i>	樹上などに生育していて目だたない が、生育地、個体数とも少なくない。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	ヒガンバナ	ユリ	ヒメニラ <i>Allium monanthum</i>	山地の限られた場所に生育していて 目だたないが、最近には新たな生育 地が確認され、個体数も増加傾向に ある。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	ヒガンバナ	ユリ	タムムラサキ <i>Allium pseudojaponicum</i>	海岸や島嶼などに生育し、生育地、 個体数とも多くない。			
絶滅危惧Ⅱ類	キジカクシ	ユリ	ザラツキギボウシ <i>Hosta kikutii</i> var. <i>scabrinervia</i>	吉野川やその支流の溪畔岩場などに 生育し、個体数は少ない。		絶滅危惧Ⅱ類	アワギボウシとの区別が難しい 個体がある。
絶滅危惧Ⅱ類	キジカクシ	ユリ	ナンカイギボウシ <i>Hosta tardiva</i>	県内では生育地、個体数ともやや多 い。	絶滅危惧Ⅰ類		徳島県が基準産地である。人家 に近い場所では栽培種の逸出と 思われるものが見られる。
絶滅危惧Ⅱ類	ガマ	ミクリ	ミクリ <i>Sparganium erectum</i> var. <i>coreanum</i>	生育地は限られているが県南の河川 には群生地があり、個体数も多い。	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	オオミクリは含めない。
絶滅危惧Ⅱ類	ガマ	ミクリ	オオミクリ <i>Sparganium erectum</i> var. <i>macrocarpum</i>	生育地は限られているが、群生する ため個体数はやや多い。		絶滅危惧Ⅱ類	
絶滅危惧Ⅱ類	ガマ	ガマ	コガマ <i>Typha orientalis</i>	県内の生育地は限られていて、個体 数も少ないが、最近には複数箇所 で新たな生育が確認されている。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	ホシクサ	ホシクサ	イヌノヒゲ(シロイヌノ ヒゲ) <i>Eriocaulon miquelianum</i> var. <i>miquelianum</i>	自然遷移により生育環境の劣化が 目だつ場所もあるが、群生地がある ため個体数は多い。	絶滅危惧Ⅰ類		これまで別分類群として扱われ てきたイヌノヒゲとシロイヌノ ヒゲが同じものとされたため、 結果的に個体数は増加した。
絶滅危惧Ⅱ類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	イセウキヤガラ <i>Bolboschoenus planiculmis</i>	生育場所は限られているが、群生 するため個体数は多い。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ウマスゲ <i>Carex idzuroei</i>	工事などで減少した場所もある が、溜め池、河畔、水路沿いなど で新しい生育地が確認された。	絶滅危惧Ⅰ類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧Ⅱ類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	センダイスゲ <i>Carex lenta</i> var. <i>sendaica</i>	県内の生育地は限られていて、台風による生育地の流失や自然遷移の進行などで、生育地、個体数とも減少した。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	フサスゲ <i>Carex metallica</i>	新たな生育地が確認されているが、生育地は限られていて、個体数は減少している。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	オタルスゲ(ヒメテキリスゲ) <i>Carex otaruensis</i> var. <i>otaruensis</i>	生育場所は山間地にある湿地に限られ、湿地開発によってたちまち消滅のする恐れがあるが、現在は群生し、個体数も多い。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ベニイトスゲ <i>Carex sachalinensis</i> var. <i>rubrovaginata</i>	県内の山地に生育し、個体数も多くない。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	セイタカハリイ <i>Eleocharis attenuata</i>	県内の生育地は限られているが、新たな生育地が確認され、個体数もやや多い。	準絶滅危惧		
絶滅危惧Ⅱ類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	エゾハリイ <i>Eleocharis maximowiczii</i>	県内の生育地は限られていて、最大の群生地はニホンジカの食害で消滅し、全体の個体数が激減した。	準絶滅危惧		
絶滅危惧Ⅱ類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	チャボイ <i>Eleocharis parvula</i>	海岸周辺の調査によって新たな生育地が追加され、個体数も増加したが、休耕田やハス田などの生育環境は不安定である。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
絶滅危惧Ⅱ類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ビロードテンツキ <i>Fimbristylis sericea</i>	生育場所は限られていて、海岸の工事等で減少したが、群生している場所もあり、個体数はまだ多い。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	トラノハナヒゲ <i>Rhynchospora brownii</i>	生育地の消失や生育環境の悪化などにより減少が著しい。			
絶滅危惧Ⅱ類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	コイヌノハナヒゲ <i>Rhynchospora fujiana</i>	県内の生育地は少なく、生育地の遷移の進行で減少している。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	イガクサ <i>Rhynchospora rubra</i>	生育環境の悪化により個体数の減少が著しい。			
絶滅危惧Ⅱ類	カヤツリグサ	カヤツリグサ	イヌノハナヒゲ <i>Rhynchospora rugosa</i>	生育環境の悪化により生育地、個体数共に激減した。			
絶滅危惧Ⅱ類	イネ	イネ	ウンヌケモドキ <i>Eulalia quadrinervis</i>	工事や自然遷移で減少しているが、県内の低山や山麓に点在して生育地、個体数ともまだ多い。	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	
絶滅危惧Ⅱ類	イネ	イネ	イワタケソウ <i>Hystrix duthiei</i> subsp. <i>japonica</i>	県内の生育地は限られ、ニホンジカの食害や生育環境の悪化で減少している。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	イネ	イネ	ウキシバ <i>Pseudoraphis sordida</i>	県内の溜め池に生育し、生育場所は限られ、発生の多少は池の水量などによって変動がある。多いときは水面に群生する。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	メギ	メギ	オオバメギ <i>Berberis tschonoskyana</i>	県内の高い山地に生育し、ニホンジカの食害の影響で減少している。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	メギ	メギ	サイコウイカリソウ <i>Epimedium diphyllum</i> subsp. <i>kitamuranum</i>	生育地が限られ、自然遷移や採取などで個体数が減少しているが、新たな生育地も確認された。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
絶滅危惧Ⅱ類	メギ	メギ	ヤチマタイカリソウ <i>Epimedium grandiflorum</i> var. <i>grandiflorum</i>	石灰岩地に生育し、採取などで減少したが個体数はやや多い。	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	
絶滅危惧Ⅱ類	キンポウゲ	キンポウゲ	レイジンソウ <i>Aconitum loczyanum</i>	県内の分布は限られ、ニホンジカの食害により減少した。	絶滅危惧Ⅱ類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧Ⅱ類	キンポウゲ	キンポウゲ	ユキワリイチゲ <i>Anemone keiskeana</i>	生育適地はやや限られていて、環境の悪化や採取などで個体数も減少している。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	キンポウゲ	キンポウゲ	シロバナハンショウヅル <i>Clematis williamsii</i>	県内では石灰岩地に多いが、集落近くの山麓などにも生育し、工事などで減少した。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	キンポウゲ	キンポウゲ	コセリバオウレン <i>Coptis japonica</i> var. <i>japonica</i>	県内の生育地は限られていて、個体数も少ない。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	スグリ	ユキノシタ	ヤブサンザシ <i>Ribes fasciculatum</i>	生育地は限られていて、個体数も多くない。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	ユキノシタ	ユキノシタ	モミジバセンダイソウ <i>Saxifraga sendaica</i> f. <i>laciniata</i>	生育地は限られているが、群生地もあり、個体数はやや多い。	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	県内ではセンダイソウ <i>S. sendaica</i> は確認できていない。
絶滅危惧Ⅱ類	タコノアシ	ユキノシタ	タコノアシ <i>Penthorum chinense</i>	県内の生育地は限られていて、湿地の遷移の進行や河川の工事などで減少している。	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
絶滅危惧Ⅱ類	バラ	バラ	イワキンバイ <i>Potentilla ancistrifolia</i> var. <i>dickinsii</i>	県内の高山の岩場に生育し、個体数も限られている。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	バラ	バラ	キジムシロ <i>Potentilla fragarioides</i> var. <i>major</i>	自然遷移や工事などで、生育地、個体数ともに減少している。			
絶滅危惧Ⅱ類	バラ	バラ	ツルキンバイ <i>Potentilla rosulifera</i>	山地に生育しているが、生育地、個体数とも多くない。			
絶滅危惧Ⅱ類	バラ	バラ	ツクシイバラ <i>Rosa multiflora</i> var. <i>adenocaeta</i>	生育地は河畔などの不安定な環境にあるが、県南の群生地では個体数は多い。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	バラ	バラ	ミヤコイバラ <i>Rosa paniculigera</i>	自然遷移などにより減少した場所もあるが、新たな生育地が確認されている。	絶滅危惧Ⅰ類		アワノミヤコイバラ var. <i>awaensis</i> (阿部1990)は含めない。
絶滅危惧Ⅱ類	バラ	バラ	ヤマイバラ <i>Rosa sambucina</i>	県内の生育地は限られていて個体数も多くないが、樹勢は強く、減少の要因は少ない。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	バラ	バラ	オオバライチゴ <i>Rubus croceacanthus</i>	生育地は県南に限られていて、個体数も多くないが、個体数の減少は認められない。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	バラ	バラ	ハスノハイチゴ <i>Rubus peltatus</i>	県内の高山に生育しているが、ニホンジカの食害により個体数が減少した。		準絶滅危惧	
絶滅危惧Ⅱ類	バラ	バラ	ミヤマモミジイチゴ <i>Rubus pseudoacer</i>	かつては剣山などに多く生育していたが、ニホンジカの食害で急激に減少した。		準絶滅危惧	成熟個体は極めて少ない。
絶滅危惧Ⅱ類	バラ	バラ	シモツケ <i>Spiraea japonica</i> var. <i>japonica</i>	県内の生育地は高山に限られていて、ニホンジカの食害により個体数は減少した。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	クロウメモドキ	クロウメモドキ	オオクマヤナギ <i>Berchemia magna</i>	県内の分布は比較的広いが個体数は少ない。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	クロウメモドキ	クロウメモドキ	クロカンバ <i>Rhamnus costata</i>	生育地一帯はニホンジカの摂食圧を受けているが、生育場所はやや多く、個体数の減少は認められない。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	ニレ	ニレ	オヒョウ <i>Ulmus laciniata</i>	分布が限られ、個体数も少ない。若い個体がニホンジカの摂食圧を受けているが成木の被害は認められない。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	イラクサ	イラクサ	ミヤコミズ <i>Pilea kiotensis</i>	四国では本県だけに生育し、個体数はやや多い。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	ウリ	ウリ	オオカラスウリ <i>Trichosanthes laceribracteata</i>	主に吉野川流域に生育しているが、新たに確認された生育場所も多く、個体数も増加した。	絶滅危惧Ⅰ類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧Ⅱ類	トウダイグサ	トウダイグサ	ヒメナツトウダイ <i>Euphorbia tsukamotoi</i>	生育地、個体数ともに限られ、生育環境の悪化や人による採取などで減少している。			この属は研究者によって分類学的に検討が行われている。
絶滅危惧Ⅱ類	オトギリソウ	オトギリソウ	トモエソウ <i>Hypericum ascyron</i> subsp. <i>ascyron</i> var. <i>ascyron</i>	県内の分布はやや広いが、個体数はやや少ない。	絶滅危惧Ⅱ類		高山の林道沿いに本来の自生種でないと思われるものがある。
絶滅危惧Ⅱ類	ミソハギ	ミソハギ	ミズマツバ <i>Rotala mexicana</i>	圃場整備などの影響で減少した場所もあるが、新たな生育地が確認され、群生している場所が多い。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
絶滅危惧Ⅱ類	アカバナ	アカバナ	イワアカバナ <i>Epilobium amurense</i> subsp. <i>c</i> <i>ephalostigma</i>	生育地は限られ、個体数も少ないが、個体数の急激な減少は認められない。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	アカバナ	アカバナ	トダイアカバナ <i>Epilobium platystigmatosum</i>	県内の生育地は限られていて、遷移の進行や工事の影響で減少している。	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
絶滅危惧Ⅱ類	ムクロジ	カエデ	ホソエカエデ <i>Acer capillipes</i>	県内の生育地は限られ、個体数も多くないが、新たな生育場所の確認もあり、個体数の減少は認められない。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	ムクロジ	カエデ	メグスリノキ <i>Acer maximowiczianum</i>	県内の生育地は限られ、薬用などとして採取されるが、新たな生育地が確認された。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	アブラナ	アブラナ	オオユリワサビ <i>Eutrema okinosimense</i>	四国では本県の山間地の数箇所に生育が知られ、個体数も減少している。			
絶滅危惧Ⅱ類	ツチトリモチ	ツチトリモチ	ツチトリモチ <i>Balanophora japonica</i>	県内の生育地は県南に限られ、個体数も多くはない。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	イソマツ	イソマツ	ハマサジ <i>Limonium tetragonum</i>	生育環境は限定されているが、生育場所によっては群生し、個体数も多い。	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	
絶滅危惧Ⅱ類	タデ	タデ	ナガバノウナギツカミ <i>Persicaria hastatosagittata</i>	圃場整備の工事、除草剤の影響などで減少した。		準絶滅危惧	
絶滅危惧Ⅱ類	ツリフネソウ	ツリフネソウ	ツリフネソウ <i>Impatiens textorii</i>	県内の生育地は限られているが、新たな生育場所が確認され、個体数は増加した。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	サクラソウ	サクラソウ	モロコシソウ <i>Lysimachia sikokiana</i>	生育地はやや限定されるが、新たな生育場所が多く確認され、個体数も以前より増加した。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	ハイノキ	ハイノキ	ヒロハノミズバイ <i>Symplocos tanakae</i>	生育地は県南に限定されるが、最近では新たな生育場所が多く確認され、個体数も増加した。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	ツツジ	ツツジ	ヒカゲツツジ <i>Rhododendron keiskei</i> var. <i>keiskei</i>	県内の生育地は限られていて、ニホンジカの食害の多い地域では、生育環境の悪化により、個体数は減少している。	準絶滅危惧		
絶滅危惧Ⅱ類	ツツジ	ツツジ	アカイシミツバツツジ <i>Rhododendron tsurugisanense</i> var. <i>nudipetiolatum</i>	生育地は蛇紋岩地や高山に限られていて、個体数も多くない。			剣山周辺ではニホンジカの食害で減少した。
絶滅危惧Ⅱ類	アカネ	アカネ	シラタマカズラ <i>Psychotria serpens</i>	生育地は県南の島嶼に限られ、個体数はやや多い。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	キョウチクトウ	キョウチクトウ	コカモメヅル <i>Tylophora floribunda</i>	生育地、個体数ともにやや多いが、生育地の工事、自然遷移などで減少傾向にある。			
絶滅危惧Ⅱ類	キョウチクトウ	ガガイモ	インダテクサタチバナ <i>Vincetoxicum calcareum</i>	生育地の多くがニホンジカの摂食被害により荒廃しているが、嗜好種ではないため、個体数の減少は少ない。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	クサタチバナV. <i>acuminatum</i> との区別は検討を要する。
絶滅危惧Ⅱ類	ナス	ナス	マルバハダカホオズキ <i>Tubocapsicum anomalum</i> var. <i>obtusum</i>	生育地は県南の海岸に限られるが、最近の調査で、生育地、確認個体数ともに増加した。	絶滅危惧Ⅰ類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧Ⅱ類	オオバコ	ゴマノハグサ	キクガラクサ <i>Ellisiophyllum pinnatum</i> var. <i>reptans</i>	茎は地面を匍匐して広がるので個体数は多く見えるが、生育地は限られ、生育環境の悪化などで減少している。	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
絶滅危惧Ⅱ類	オオバコ	ゴマノハグサ	イヌノフグリ <i>Veronica polita</i> var. <i>lilacina</i>	県内の分布地は増加傾向にあり、市街地に近い場所のものは、本来の自生種とは異なる可能性がある。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
絶滅危惧Ⅱ類	ゴマノハグサ	ゴマノハグサ	ナンゴククガイソウ <i>Veronicastrum japonicum</i> var. <i>australe</i>	かつては県内の高山に多く見られたが、ニホンジカの食害で急激に減少した。		絶滅危惧Ⅱ類	
絶滅危惧Ⅱ類	シソ	シソ	ツクバキンモンソウ <i>Ajuga yesoensis</i> var. <i>tsukubana</i>	かつては多く見られたが、最近では生育地、個体数ともに減少している。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	シソ	シソ	ラショウモンカズラ <i>Meehanian urticifolia</i>	県内の山地に生育していて、個体数も多くない。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	シソ	シソ	ミズネコノオ <i>Pogostemon stellatus</i>	主に県南の水田に生育していることが多いが、生育地、個体数共に減少している。	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
絶滅危惧Ⅱ類	シソ	シソ	ツクンタツナミソウ <i>Scutellaria kiusiana</i>	県内の生育地は限られていて、個体数も少ない。	情報不足		
絶滅危惧Ⅱ類	キキョウ	キキョウ	ナガバシヤジン <i>Adenophora triphylla</i> var. <i>japonica</i> f. <i>lancifolia</i>	生育地は吉野川や那賀川の溪流沿いの岩場で、個体数も多くない。	絶滅危惧Ⅱ類		品種であるが溪流沿い植物として希少である。
絶滅危惧Ⅱ類	キク	キク	フクド <i>Artemisia fukudo</i>	生育地は河口の塩沼湿地で生育環境は不安定であるが、個体数は多い。	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	
絶滅危惧Ⅱ類	キク	キク	イワバノギク <i>Aster ageratoides</i> var. <i>linearilanceolatus</i>	那賀川や吉野川などの溪流沿いに生育し、個体数も多くない。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	キク	キク	キセルアザミ(マアザミ) <i>Cirsium sieboldii</i>	県内の山間地の湿地や湿原に生育しているが、自然遷移の進行や埋め立てなどで減少している。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	キク	キク	オグルマ <i>Inula britannica</i> subsp. <i>japonica</i>	生育地、個体数ともに限られ、自然遷移などで減少している。			
絶滅危惧Ⅱ類	キク	キク	カセンソウ <i>Inula salicina</i> var. <i>asiatica</i>	生育地は限られ、工事による生育地の消失や生育環境の悪化で減少した。			
絶滅危惧Ⅱ類	キク	キク	ハマニガナ <i>Ixeris repens</i>	海岸の砂浜に生育しているが、海岸の工事や環境の変化で減少した。			
絶滅危惧Ⅱ類	キク	キク	トサトウヒレン <i>Saussurea nipponica</i> subsp. <i>nipponica</i> var. <i>yoshinagae</i>	一部の生育場所では個体数は少ないが、生育地は限られていて、ニホンジカの食害の影響も受けている。	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
絶滅危惧Ⅱ類	キク	キク	タイキンギク <i>Senecio scandens</i>	主に県南の島嶼、海岸や沿海地の山麓などに生育していて、個体数もやや安定している。	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
絶滅危惧Ⅱ類	キク	キク	オカオグルマ <i>Tephrosia integrifolia</i> subsp. <i>kirilowii</i>	県内では山間地の水田の畦などに生育しているが、個体数は徐々に減少している。	準絶滅危惧		
絶滅危惧Ⅱ類	スイカズラ	スイカズラ	ウスバヒョウタンボク <i>Lonicera cerasina</i>	県内の生育地は限られているが、個体数はやや多い。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
絶滅危惧Ⅱ類	スイカズラ	スイカズラ	ウグイスカグラ <i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>glabra</i>	県内の生育地は限られ、個体数も多くない。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	スイカズラ	オミナエシ	オミナエシ <i>Patrinia scabiosifolia</i>	園芸採取や遷移などで減少したが、山間地の草地などでは個体数が維持されている。	絶滅危惧Ⅰ類		
絶滅危惧Ⅱ類	スイカズラ	スイカズラ	イワツクバネウツギ <i>Zabella integrifolia</i>	県内では石灰岩地や蛇紋岩地に生育し個体数も限られている。	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧Ⅱ類	セリ	セリ	ノダケ <i>Angelica decursiva</i>	生育地に限られていて、個体数も少ない。			
絶滅危惧Ⅱ類	セリ	セリ	イヌトウキ <i>Angelica shikokiana</i> var. <i>shikokiana</i>	吉野川などの溪畔に生育し、生育場所、個体数ともにやや多い。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
絶滅危惧Ⅱ類	セリ	セリ	ムカゴニンジン <i>Sium ninsi</i>	県内では生育場所は限られていて湿原、湿地などの遷移の進行や埋め立てなどで個体数が減少している。	絶滅危惧Ⅱ類		
絶滅危惧Ⅱ類	セリ	セリ	カノツメソウ <i>Spuriopimpinella calycina</i>	生育場所は限られ、ニホンジカの摂食被害などで減少したが、新たな生育場所も確認された。	絶滅危惧Ⅰ類		
準絶滅危惧	ゼンマイ	ゼンマイ	ヤマドリゼンマイ <i>Osmundastrum cinnamomeum</i> var. <i>fokiense</i>	県内の分布はやや限られているが、新たな生育地が確認され、個体数も安定している。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	コケシノブ	コケシノブ	オオコケシノブ <i>Hymenophyllum badium</i>	生育地、個体数ともにやや多く、現状では絶滅の危険性はやや少ない。	絶滅危惧Ⅱ類		オニコケシノブを含む。
準絶滅危惧	ホングウシダ	ホングウシダ	エダウチホングウシダ <i>Lindsaea chienii</i> var. <i>chienii</i>	生育場所は県南に限られるが、個体数はやや多い。	絶滅危惧Ⅰ類		
準絶滅危惧	イノモトソウ	ホウライシダ	ヒメウラジロ <i>Aleuritopteris argentea</i>	県内の分布は比較的広く、個体数も維持されている。	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
準絶滅危惧	イノモトソウ	ホウライシダ	ヒメミズワラビ <i>Ceratopteris gaudichaudii</i> var. <i>vulgaris</i>	県内の分布はかなり広いが、除草剤などの人による影響を受けやすい。	準絶滅危惧		九州本土以北のものは本種とされた(Masuyama & Watano 2010)。
準絶滅危惧	イノモトソウ	イノモトソウ	ハチジョウシダモドキ (コハチジョウシダ) <i>Pteris oshimensis</i>	県内の生育地、個体数ともに限られているが、個体数の減少は認められない。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	チャセンシダ	チャセンシダ	クモノスシダ <i>Asplenium ruprechtii</i>	石灰岩地を中心に生育地はやや多いが、生育環境の変化で減少傾向にある。			
準絶滅危惧	イワデンダ	イワデンダ	テバコワラビ <i>Athyrium atkinsonii</i>	剣山や矢筈山などの生育地は、ニホンジカの食害により減少が著しい。		絶滅危惧Ⅱ類	
準絶滅危惧	イワデンダ	イワデンダ	トガリバイヌワラビ <i>Athyrium iseianum</i> var. <i>angustisectum</i>	調査の充実により生育地、個体数ともに増加した。	絶滅危惧Ⅰ類		
準絶滅危惧	ウラボシ	ウラボシ	ホテイシダ <i>Lepisorus annuifrons</i>	生育場所は限られているが、個体数はやや多い。	絶滅危惧Ⅰ類		
準絶滅危惧	マツ	マツ	シコクシラベ <i>Abies veitchii</i> var. <i>reflexa</i>	ニホンジカの食害や自然枯死などで減少しているが、保護対策などにより個体数の維持が図られている。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	マツ	マツ	ハリモミ <i>Picea torano</i>	生育地はニホンジカの摂食圧の大きい地域であるが、現在は被害が認められず、個体数は安定している。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	マツ	マツ	ヒメコマツ(ゴヨウマツ) <i>Pinus parviflora</i> var. <i>parviflora</i>	県内の生育地は高山に限られ、ニホンジカによる剥皮被害を受けているが、生育地、個体数ともまだ多い。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	マツ	マツ	コマツガ <i>Tsuga diversifolia</i>	県内の生育地は極めて限られ、ニホンジカの食害の影響下にあるが急激な個体数の減少は認められない。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	コウヤマキ	コウヤマキ	コウヤマキ <i>Sciadopitys verticillata</i>	県内の生育地は限られているが、個体数の急激な減少は認められない。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	ヒノキ	ヒノキ	イブキ(ビャクシン) <i>Juniperus chinensis</i>	県内の分布は海岸の岩場や石灰岩地などに限られているが、個体数はやや多い。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	ミヤコアオイ <i>Asarum asperum</i> var. <i>asperum</i>	県内の生育地はやや限られるが、群生地が多く、個体数の減少は認められない。	絶滅危惧Ⅱ類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
準絶滅危惧	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	ナンカイアオイ <i>Asarum nipponicum</i> var. <i>nankaiense</i>	県内の分布は広く、個体数も少ないが、園芸採取、イノシシの掘り起こし、道路工事、生育地の開発などで減少した場所がある。	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
準絶滅危惧	サトイモ	サトイモ	ユキモチソウ <i>Arisaema sikokianum</i>	県内の分布は広く個体数も少ないが、園芸採取や河川工事などで減少も見られる。	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
準絶滅危惧	サトイモ	サトイモ	ナンゴクウラシマソウ <i>Arisaema thunbergii</i> subsp. <i>thunbergii</i>	県内の生育地は多くはないが、山間地で新しい生育地が数箇所確認された。今後も個体数の増加が見込まれる。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	トチカガミ	トチカガミ	クロモ <i>Hydrilla verticillata</i>	水質汚染、水路の改修、外来種の繁茂などで急激に減少しているが、現存地、個体数とも多い。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	アマモ	アマモ	コアマモ <i>Zostera japonica</i>	県内の浅い海や汽水域に群生して個体数も多いが、工事や台風などの影響を受けやすい。	準絶滅危惧		
準絶滅危惧	キンコウカ	ユリ	ソクシンラン <i>Aletris spicata</i>	県内の生育地はやや限られているが、新産地が確認されるなどで、生育地、個体数ともに若干増加した。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	サルトリイバラ	サルトリイバラ	ヤマカシユウ <i>Smilax sieboldii</i>	生育地、個体数ともにやや少なく、ニホンジカの食害の影響を受ける可能性がある。			
準絶滅危惧	ラン	ラン	シラン <i>Bletilla striata</i> var. <i>striata</i>	県内では吉野川、那賀川などの渓流域の岩場に生育地が多く、個体数も少ないが、工事や園芸用の採取などで減少した場所も多い。	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	ラン	ラン	ツチアケビ <i>Cyrtosia septentrionalis</i>	生育地、個体数ともに不安定で、ニホンジカによる摂食圧や生育環境の悪化で減少している。			
準絶滅危惧	ラン	ラン	アキザキヤツシロラン <i>Gastrodia verrucosa</i>	河畔の竹林などに生育し、台風時の流失や、土砂の堆積などで、生育緩急は不安定であるが、生育場所、個体数ともに多い。	絶滅危惧Ⅰ類		
準絶滅危惧	キジカクシ	ユリ	アワギボウシ <i>Hosta kikutii</i> var. <i>densinervia</i>	吉野川、祖谷川などの河畔岩場に生育し、個体数はやや多い。			ザラツキギボウシとの区別が難しい個体がある。
準絶滅危惧	キジカクシ	ユリ	トウギボウシ(オオバギボウシ) <i>Hosta sieboldiana</i> var. <i>sieboldiana</i>	県内の生育地は多くはないが、群生地があり、個体数は多い。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	ショウガ	ショウガ	アオノクマタケラン <i>Alpinia intermedia</i>	県内での生育地は県南の島嶼に限られているが、生育場所によっては群生していて個体数も多い。	絶滅危惧Ⅰ類		
準絶滅危惧	ガマ	ミクリ	ナガエミクリ <i>Sparganium japonicum</i>	県内の分布は広く、個体数も少ないが、生育地の水路の改修や自然遷移などで減少している。	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	カヤツリグサ	カヤツリグサ	キノクニスゲ <i>Carex matsumurae</i>	県南の島嶼には群生地があり、個体数も多いが、生育地は限られている。	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	カヤツリグサ	カヤツリグサ	アゼスゲ <i>Carex thunbergii</i> var. <i>thunbergii</i>	生育地は限られていたが、最近の環境調査で、新たな生育地が数箇所確認された。個体数も多い。	絶滅危惧Ⅰ類		
準絶滅危惧	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ヒゲスゲ(イソスゲ) <i>Carex wahuensis</i> var. <i>bongardii</i>	県内の島嶼の一部には群生地があるが、全体的には生育地が県南の海岸に限られている。	絶滅危惧Ⅱ類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
準絶滅危惧	カヤツリグサ	カヤツリグサ	イヌクログワイ <i>Eleocharis dulcis</i>	県内では、溜め池、用水路、水田の溝などの数箇所に生育していて、個体数はやや多い。	絶滅危惧I類		
準絶滅危惧	カヤツリグサ	カヤツリグサ	アンペライ(ネビキグサ) <i>Machaerina rubiginosa</i>	県内の生育地は2箇所しか確認されていないが、個体数は増加している。	絶滅危惧II類		
準絶滅危惧	イネ	イネ	スズメノコビエ <i>Paspalum scrobiculatum</i> var. <i>orbiculare</i>	県内の生育地は少ないが、最近の調査で新産地が加わり、個体数も増加した。	絶滅危惧II類		
準絶滅危惧	イネ	イネ	イヌアワ <i>Setaria chondrachne</i>	県内では那賀川や吉野川河畔などで新産地が確認され、個体数もやや多い。	絶滅危惧I類		
準絶滅危惧	イネ	イネ	チシマカニツリ(カニツリススキ) <i>Trisetum sibiricum</i>	県内の生育地は限られ、ニホンジカの食害の多い地域にあるが、個体数の減少は認められない。	絶滅危惧II類		
準絶滅危惧	キンポウゲ	キンポウゲ	サンヨウブシ <i>Aconitum sanyoense</i>	山地に生育しているが生育地は限られ、個体数も多くない。			
準絶滅危惧	キンポウゲ	キンポウゲ	シコクフクジュソウ <i>Adonis shikokuensis</i>	生育場所によっては群生して個体数も多いが、生育地は限られていて、園芸用採取などで減少傾向にある。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	
準絶滅危惧	ボタン	ボタン	ヤマシャクヤク <i>Paeonia japonica</i>	県内の山地には、多くの生育地があり、個体数も多い。	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	ユキノシタ	ユキノシタ	ウメバチソウ <i>Parnassia palustris</i> var. <i>palustris</i>	河川の溪畔、スキー場、放牧場などで、生育地、個体数ともに減少している。			
準絶滅危惧	ベンケイソウ	ベンケイソウ	ツメレンゲ <i>Orostachys japonica</i>	本来の自生地は限られているが、栽培起源と考えられるものが各地に自然状態で生育し、個体数は増加している。	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	マメ	マメ	フジキ <i>Cladrastis platycarpa</i>	県内の生育地は比較的限られ、ニホンジカの食害の影響を受けているが、個体数の減少は認められない。	絶滅危惧II類		
準絶滅危惧	マメ	マメ	ミソナオシ <i>Ohwia caudata</i>	新しい生育地が確認され、個体数も比較的多い。	絶滅危惧II類		
準絶滅危惧	バラ	バラ	テリハキンバイ <i>Potentilla riparia</i> var. <i>riparia</i>	県内の山間地に比較的多く生育し、個体数も多い。	情報不足		
準絶滅危惧	バラ	バラ	ヒメバライチゴ <i>Rubus minusculus</i>	調査の充実により生育地、個体数ともに増加した。道路工事や森林伐採などの人為的な影響を受けやすい。	絶滅危惧I類		
準絶滅危惧	バラ	バラ	ホソバノイブキシモツケ <i>Spiraea dasyantha</i> var. <i>angustifolia</i>	県内では吉野川流域の岩場に生育し、個体数の減少は認められない。	絶滅危惧II類		イブキシモツケとの区別が難しく、同種とする見解がある。本県が基準産地。
準絶滅危惧	バラ	バラ	トサシモツケ <i>Spiraea nipponica</i> var. <i>tosaensis</i>	那賀川流域には生育地、個体数とも多いが、下流域では河川工事で減少傾向にある。			
準絶滅危惧	クロウメモドキ	クロウメモドキ	ヨコグラノキ <i>Berchemiella berchemiifolia</i>	主に石灰岩地や蛇紋岩地に生育し、個体数も多くないが、その減少は認められない。	絶滅危惧II類		
準絶滅危惧	ニレ	ニレ	ハルニレ <i>Ulmus davidiana</i> var. <i>japonica</i>	県内の生育場所は限られているが、個体数の減少は認められない。	絶滅危惧II類		
準絶滅危惧	カバノキ	カバノキ	イワシデ <i>Carpinus turczaninovii</i>	生育地は石灰岩地に限られるが、個体数は多い。	絶滅危惧II類		
準絶滅危惧	ニシキギ	ニシキギ	オオツルウメモドキ <i>Celastrus stephanotifolius</i>	県内の生育地は限られていて、個体数も多くないが、絶滅の危険性はやや少ない。	絶滅危惧I類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
準絶滅危惧	トウダイグサ	トウダイグサ	イワタイゲキ <i>Euphorbia jolkinii</i>	県内では主に県南の海岸に多く生育し、工事や漂着ゴミの堆積などで減少傾向にあるが、生育地、個体数ともに多い。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	ミカンソウ	トウダイグサ	ヒトツバハギ <i>Flueggea suffruticosa</i>	県内の生育地は主に那賀川流域に限られた場所であるが、個体数はやや多い。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	オトギリソウ	オトギリソウ	ミズオトギリ <i>Triadenum japonicum</i>	湿地の埋め立てや自然遷移の進行で減少傾向にあるが、休耕田などでも確認され、生育地、個体数ともにやや多い。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	フウロソウ	フウロソウ	イヨフウロ <i>Geranium shikokianum</i> var. <i>shikokianum</i>	県内の高山に生育しているが、ニホンジカの食害により個体数が減少した。		準絶滅危惧	
準絶滅危惧	フウロソウ	フウロソウ	コフウロ <i>Geranium tripartitum</i> var. <i>tripartitum</i>	過去の記録地は多くないが、調査の進展に伴って、生育地、個体数ともに増加した。	絶滅危惧Ⅰ類		
準絶滅危惧	アカバナ	アカバナ	ケゴンアカバナ <i>Epilobium amurense</i> subsp. <i>amurense</i>	生育地は限られているが個体数はやや多い。	絶滅危惧Ⅰ類		
準絶滅危惧	アカバナ	アカバナ	ウスゲチョウジタデ <i>Ludwigia epilobioides</i> subsp. <i>greatrexii</i>	県内の生育記録は少なかったが、最近の調査により生育地、個体数ともに増加した。	情報不足	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	アオイ	アオイ	ハマボウ <i>Hibiscus hamabo</i>	自生地は極めて少ないが、栽培品による種子散布で分布が拡大している。	絶滅危惧Ⅰ類		
準絶滅危惧	アブラナ	アブラナ	コイヌガラシ <i>Rorippa cantoniensis</i>	県内には比較的広く分布し、個体数も少なくないが、除草剤の使用で減少している場所もある。	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	オオバヤドリギ	ヤドリギ	マツグミ <i>Taxillus kaempferi</i> var. <i>kaempferi</i>	かつては普通に見られたが、宿主のアカマツの減少で急激に減少した。			
準絶滅危惧	タデ	タデ	クリンユキフデ <i>Bistorta suffulta</i>	生育地は高山に限られ、ニホンジカの食害を受けているが、顕著な個体数の減少は認められない。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	タデ	タデ	サデクサ <i>Persicaria maackiana</i>	除草剤や湿地の埋め立てなどで生育地が減少しているが、群生している場所もあり、個体数も維持されている。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	タデ	タデ	コギシギシ <i>Rumex dentatus</i> subsp. <i>klotzschianus</i>	県内全体では生育地、個体数ともに多いが、生育場所は耕作地などの不安定な生育環境である。	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
準絶滅危惧	ナデシコ	ナデシコ	ヤマハコベ <i>Stellaria uchiyamana</i> var. <i>uchiyamana</i>	過去の生育記録に比べ、生育地、個体数ともに増加した。	絶滅危惧Ⅰ類		
準絶滅危惧	ヒユ	アカザ	ハママツナ <i>Suaeda maritima</i> var. <i>maritima</i>	生育地は海岸や河口の限られた場所であるが個体数は多い。	絶滅危惧Ⅰ類		
準絶滅危惧	ミズキ	ミズキ	イシツチミズキ <i>Cornus controversa</i> var. <i>shikokumontana</i>	県内の高山に多く生育していたが、ニホンジカによる剥皮被害により急激に減少した。			
準絶滅危惧	カキノキ	カキノキ	リュウキュウマメガキ <i>Diospyros japonica</i>	海岸から山地まで広く生育地が確認され、個体数も増加した。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	エゴノキ	エゴノキ	ハクウンボク <i>Styrax obassia</i>	県内の生育地は比較的限られていて、ニホンジカの食害の影響を受けているが、個体数の減少はそれほど顕著には認められない。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	ツツジ	ツツジ	アケボノツツジ <i>Rhododendron pentaphyllum</i> var. <i>shikokianum</i>	県内の生育地は限られているが、群生地として知られている場所もあり、個体数は多い。	絶滅危惧Ⅱ類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
準絶滅危惧	ツツジ	ツツジ	シロヤシオ(ゴヨウツツジ) <i>Rhododendron quinquefolium</i>	県内では高山の岩場に生育し、ニホンジカの食害も及びにくく、群生地もあり、個体数も多い。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	ツツジ	ツツジ	フジツツジ <i>Rhododendron tosaense</i>	県南の山地に生育し、生育地、個体数とも多くない。			道路工事で生育環境が悪化した場所がある。
準絶滅危惧	ツツジ	ツツジ	コメツツジ <i>Rhododendron tschonoskii</i> subsp. <i>tschonoskii</i> var. <i>tschonoskii</i>	県内の生育地は高山に限られ、ニホンジカの食害が認められるが、群生地が知られ、生育地、個体数ともに多い。	絶滅危惧Ⅱ類		県内に生育するものはニシノコメツツジ(高橋1987)に該当する。
準絶滅危惧	ツツジ	ツツジ	ツルギミツバツツジ <i>Rhododendron tsurugisanense</i> var. <i>tsurugisanense</i>	県内の高山に生育し、個体数も比較的多いが、剣山地ではニホンジカの食害の影響を受けている。	準絶滅危惧		トクシマミツバツツジを含む。
準絶滅危惧	マチン	マチン	ホウライカズラ <i>Gardneria nutans</i>	県南から県北まで分布は比較的広く、生育場所、個体数ともに多くないが、新たな生育地が複数箇所確認された。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	ムラサキ	ムラサキ	サワリソウ <i>Ancistrocarya japonica</i>	生育地、個体数ともに少なかったが、ニホンジカの摂食被害を受けないので個体数は増加している。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	ムラサキ	ムラサキ	マルバチシャノキ <i>Ehretia dicksonii</i>	県南の海岸に生育しているが、新たな生育地が確認され、個体数も増加した。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	オオバコ	ゴマノハグサ	スズメノハコベ <i>Microcarpaea minima</i>	圃場整備や除草剤によって減少しているが、県南の水田には生育場所、個体数ともに多い。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
準絶滅危惧	オオバコ	ゴマノハグサ	カワチシャ <i>Veronica undulata</i>	県内の分布は広く、個体数も多いが、最近、吉野川では競合する外来種の侵入が認められたので、今後は個体数の減少が危惧される。	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	シソ	シソ	タニジャコウソウ <i>Chelonopsis longipes</i>	生育地、個体数とも少なくないが、場所によってはニホンジカの食害を強く受けている。		準絶滅危惧	
準絶滅危惧	シソ	シソ	トラノオジソ <i>Perilla hirtella</i>	新たな生育地が見つかり、個体数も増加した。	絶滅危惧Ⅰ類		
準絶滅危惧	シソ	クマツヅラ	カリガネソウ <i>Tripora divaricata</i>	新たな生育地が確認され、個体数もやや増加した。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	モチノキ	モチノキ	ツゲモチ <i>Ilex goshiensis</i>	主に県南の常緑広葉樹林に生育し、個体数も多くないが、絶滅の危険性はやや少ない。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	キク	キク	シオギク <i>Chrysanthemum shiwogiku</i>	県南の海岸に生育し、大量の漂着ごみの堆積や海岸工事、栽培菊との交雑などの影響を受けやすいが個体数は多い。	準絶滅危惧		徳島県の準固有種で、日本での分布が限られている。
準絶滅危惧	キク	キク	ナカガワノギク <i>Chrysanthemum yoshinaganthum</i>	生育地は那賀川流域や日和佐川の一部に限定されているが、個体数は多く、絶滅の危険性は少ない。	地域個体群	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	キク	キク	ヒメアザミ <i>Cirsium buergeri</i>	県内の生育地は限られているが、個体数はやや多い。	絶滅危惧Ⅱ類		
準絶滅危惧	キク	キク	イズハハコ(ワタナ) <i>Conyza japonica</i>	新たな生育地が多く確認され、全体の個体数は増加した。	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
準絶滅危惧	キク	キク	アオヤギバナ <i>Solidago yokusaiana</i>	河川の渓流沿いの岩場に生育し、生育地、個体数ともに少なくないが、場所によっては河川工事や道路工事で減少している。	準絶滅危惧		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
準絶滅危惧	キク	キク	サワオグルマ <i>Tephroseria pierotii</i>	県南などの放棄水田や湿地に多く生育しているが、自然遷移や湿地の開発によって減少している。	準絶滅危惧		
準絶滅危惧	キク	キク	ウラギク <i>Tripolium pannonicum</i>	かつての生育地が台風や工事で失われたところもあるが、新たな生育地の確認などで個体数は増加した。	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	セリ	セリ	サケバゼリ <i>Oenanthe javanica</i> var. <i>japonica</i>	県南の海岸地方に見られ、セリに比べて生育地、個体数ともに少ないが繁殖力は旺盛である。	絶滅危惧Ⅰ類		セリ subsp. <i>javanica</i> と同種とする見解がある。
留意	ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ	アスヒカズラ <i>Lycopodium complanatum</i>	過去に生育記録があるがその後の確認情報がない。	絶滅危惧Ⅰ類		
留意	ミズニラ	ミズニラ	ミズニラモドキ <i>Isoetes pseudojaponica</i>	生育地の溜め池が埋め立てられ、その後、他所での生育情報は得られていない。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
留意	デンジソウ	デンジソウ	デンジソウ <i>Marsilea quadrifolia</i>	過去に記録された生育地のものは環境悪化により消滅し、他からの生育情報は得られていない。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
留意	イワデンダ	イワデンダ	イワイヌワラビ <i>Athyrium nikkoense</i>	生育地が1箇所のみ記録されているが、記録地では確認できず、他所からの確認情報もない。	情報不足		
留意	イワデンダ	イワデンダ	ヒメノコギリシダ <i>Diplazium wichurae</i> var. <i>amabile</i>	県内では1箇所に記録があるが、最近の確認情報は得られない。		準絶滅危惧	
留意	オシダ	オシダ	ハガクレカナワラビ <i>Arachniodes yasui-inoueii</i> var. <i>yasui-inoueii</i>	本種とされていたが、研究者により別種の可能性が示唆されている。	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
留意	オシダ	オシダ	イズヤブソテツ <i>Cyrtomium atropunctatum</i>	過去に2箇所の生育記録があるが、その後の確認情報は得られない。	絶滅危惧Ⅰ類		
留意	ヒルムシロ	ヒルムシロ	ヒロハノエビモ <i>Potamogeton perfoliatus</i>	徳島市、小松島市に記録があるが、その後の生育情報は得られない。	絶滅		
留意	ユリ	ユリ	ヒロハノアマナ <i>Amana erythronioides</i>	かつて記録されている生育地にはアマナしか確認できず、どこからも生育情報は得られない。	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類	アマナの葉の広いものの誤認の可能性もある。
留意	ラン	ラン	シュスラン <i>Goodyera velutina</i>	県内では数箇所に記録されているが、最近の生育の情報が得られていない。	情報不足		
留意	ラン	ラン	ササバラシ <i>Liparis odorata</i>	県内には1箇所に記録されているが、最近の生育情報が得られない。	情報不足	絶滅危惧ⅠB類	
留意	ラン	ラン	ミヤマフタバラン <i>Neottia nipponica</i>	県内では剣山に記録されているが、最近の生育情報が得られない。	情報不足		
留意	ラン	ラン	ホソバノキソチドリ <i>Platanthera tipuloides</i> subsp. <i>tipuloides</i>	剣山に記録があるが、近年の生育情報は得られない。	情報不足		標本が無いため再検討ができない。分布を疑問視する研究者もある。
留意	キジカクシ	ユリ	キヨスミギボウシ <i>Hosta kiyosumiensis</i>	県内の生育地は少なく、個体数も少ない。	絶滅危惧Ⅰ類		オオバギボウシとの違いなどについて種の検討が必要。
留意	キジカクシ	ユリ	ヒュウガギボウシ <i>Hosta kikutii</i> var. <i>kikutii</i>	県内の生育地は数箇所に記録があるが、最近では未確認。	絶滅危惧Ⅰ類		種の検討が必要。
留意	ホシクサ	ホシクサ	オオホシクサ <i>Eriocaulon buergerianum</i>	県内には2箇所に記録されているが、記録地では確認できない。	情報不足		
留意	ホシクサ	ホシクサ	サイコククロイヌノヒゲ <i>Eriocaulon kiusianum</i>	過去に1箇所記録されているが、最近の生育情報は得られない。	情報不足		最近ではツクシクロイヌノヒゲと同種とされるが記録のものが該当するか要検討。
留意	ホシクサ	ホシクサ	イヌノヒゲモドキ <i>Eriocaulon sekimotoi</i>	県南の1箇所に生育地が記録されている。	情報不足		県内のものはニッポンイヌノヒゲの変異内の可能性があり、検討が必要。

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
留意	カヤツリグサ	カヤツリグサ	オクノカンスゲ <i>Carex foliosissima</i> var. <i>foliosissima</i>	県内には1箇所では記録されているが、最近では生育情報が得られない。	情報不足		
留意	カヤツリグサ	カヤツリグサ	サワヒメスゲ <i>Carex mira</i>	記録された生育場所や周辺部を調査したが確認できない。	絶滅危惧I類		
留意	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ヒカゲハリスゲ <i>Carex onoei</i>	県内で採集された標本があるが、生育確認の情報は得られていない。			
留意	カヤツリグサ	カヤツリグサ	タカネマスクサ <i>Carex planata</i>	かつての生育地は遷移の進行や道路工事で消滅した。新たな生育情報があるが未確認。	情報不足		
留意	カヤツリグサ	カヤツリグサ	シオカゼテンツキ <i>Fimbristylis cymosa</i> var. <i>cymosa</i>	県内の生育地は3箇所が記録されているが、現存は未確認。	絶滅危惧II類		他種の誤認の可能性が高い。
留意	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ツルカミカワスゲ <i>Carex sabyensis</i> var. <i>rostrata</i>	県内の生育地は1箇所であるが、もともと個体数はごくわずかで、最近では確認出来なくなっている。	絶滅危惧I類		
留意	カヤツリグサ	カヤツリグサ	イトイヌノハナヒゲ <i>Rhynchospora faberi</i>	県内には2箇所に生育が記録されているが、工事などで失われた可能性があり、確認できない。	情報不足		
留意	カヤツリグサ	カヤツリグサ	ミカワシンジュガヤ <i>Scleria mikawana</i>	かつての生育地では確認できず、他所での確認情報も得られない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
留意	カヤツリグサ	カヤツリグサ	マネキシンジウガヤ <i>Scleria rugosa</i> var. <i>onoei</i>	県内の数箇所に1箇所に生育記録があるが、最近の生育情報は得られない。	情報不足		
留意	イネ	イネ	タカネノガリヤス <i>Calamagrostis sachalinensis</i>	記録されている場所では確認できない。	絶滅危惧I類		
留意	イネ	イネ	ヒゲシバ <i>Sporobolus japonicus</i>	県内には数箇所に記録されているが、最近の生育情報は得られない。	情報不足		
留意	イネ	イネ	ピロードキビ <i>Urochloa villosa</i>	以前の生育場所では確認できない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
留意	ケシ	ケシ	ヤマエンゴサク <i>Corydalis lineariloba</i> var. <i>lineariloba</i>	生育場所は1箇所にのみ記録されているが、最近の生育情報は得られていない。	絶滅危惧I類		ヒメエンゴサクとの区別を要検討。
留意	ケシ	ケシ	ホザキキケマン <i>Corydalis racemosa</i>	県内では1箇所に記録があるが、確かな生育情報は得られない。	情報不足		
留意	キンボウゲ	キンボウゲ	カザグルマ <i>Clematis patens</i>	新しい生育地が見出されたが、人家近くにあり、栽培品の逸出の可能性が高い。	絶滅	準絶滅危惧	
留意	ツゲ	ツゲ	チョウセンヒメツゲ <i>Buxus microphylla</i> var. <i>insularis</i>	県内に生育しているものは別種の可能性がある。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	蛇紋岩地に生育し、本種とされていたものはツゲの変異内とする見解がある。
留意	ユキノシタ	ユキノシタ	チダケサシ <i>Astilbe microphylla</i> var. <i>microphylla</i>	生育地やその周辺は改変され、絶滅の可能性が高い。	絶滅危惧I類		
留意	ユキノシタ	ユキノシタ	オオチャルメルソウ <i>Mitella japonica</i>	県内には2箇所では記録されているが、現存は確認されていない。	情報不足		
留意	ベンケイソウ	ベンケイソウ	タカネマンネングサ <i>Sedum tricarpum</i>	県内の高山に記録があるが、現存は確認できていない。	情報不足		
留意	アリノトウグサ	アリノトウグサ	タチモ <i>Myriophyllum ussuriense</i>	記録されている生育地では確認できない。他所での生育情報も得られない。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
留意	マメ	マメ	ヒメノハギ <i>Codariocalyx microphyllus</i>	過去の記録地では生育環境の悪化で確認できなかった。	情報不足		
留意	マメ	マメ	ツルフジバカマ <i>Vicia amoena</i>	県内では1箇所にのみ記録されているが、現状は不明である。	情報不足		
留意	マメ	マメ	シコクエビラフジ <i>Vicia venosa</i> subsp. <i>yamanakae</i>	県内の生育地は1箇所に記録されているが、最近では確認できない。	情報不足		以前はヒメヨツバハギ var. <i>minor</i> とされていたが、小葉が小さくシコクエビラフジとされた。

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
留意	バラ	バラ	サナギイチゴ <i>Rubus pungens</i> var. <i>oldhamii</i>	県内には1箇所のみ生育地があるが、ニホンジカの被害で最近では確認できない。	情報不足	絶滅危惧II類	
留意	クロウメモドキ	クロウメモドキ	ケンボナシ <i>Hovenia dulcis</i>	神社などに植栽されていることが多く、自生か植栽かの判断は難しい。	絶滅危惧II類		
留意	ニシキギ	ニシキギ	イワウメヅル <i>Celastrus flagellaris</i>	県内では2箇所に記録されているが、最近では生育情報が得られない。	情報不足		
留意	ニシキギ	ニシキギ	ムラサキマユミ <i>Euonymus lanceolatus</i>	県内に生育記録があるが、記録地では確認できていない。	情報不足		
留意	ヤナギ	ヤナギ	カワヤナギ <i>Salix miyabeana</i> subsp. <i>gymnolepis</i>	県内に自然自生地と考えられる場所は1箇所のみであったが、2011年に河川工事で絶滅状態になった。	情報不足		四国には自生しないとの見解もある。
留意	オトギリソウ	オトギリソウ	クモイオトギリ <i>Hypericum × hyugamontanum</i>	ナガサキオトギリと同所に生育し、萼片に有柄黒点をもつ以外は区別が困難であった。さらなる検討を要する。	情報不足		ナガサキオトギリ×サワオトギリとされ、雑種との見解がある。
留意	ミノハギ	ヒシ	ヒメビシ <i>Trapa incisa</i>	これまで知られている生育地では発生が認められなくなっている。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
留意	アブラナ	アブラナ	ハマハタザオ <i>Arabis stelleri</i> var. <i>japonica</i>	県南の一部に生育していたが、近年は生育情報が得られない。	絶滅危惧I類		
留意	タデ	タデ	ヤナギヌカボ <i>Persicaria foliosa</i> var. <i>paludicola</i>	県内では1箇所に記録があるが、確認情報は得られない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
留意	タデ	タデ	マダイオウ <i>Rumex madaio</i>	県内には数箇所の生育地が記録されているが、最近の確認情報は得られていない。	情報不足		
留意	ナデシコ	ナデシコ	ヒナワチガイソウ <i>Pseudostellaria heterantha</i> var. <i>linearifolia</i>	県内では1箇所にのみ記録されているが、類似の個体は他所にもあり、検討を要する。	情報不足	絶滅危惧II類	
留意	ナデシコ	ナデシコ	ウシオツメクサ <i>Spergularia marina</i>	生育地は極めて少なく、最近の生育情報は得られていない。			
留意	ヒユ	アカザ	ホウキギ(イソホウキギ) <i>Bassia scoparia</i> var. <i>scoparia</i>	県内の海岸に生育地が記録されているが、現在は確認情報が得られていない。	情報不足		帰化の可能性があるとされる。
留意	ヒユ	アカザ	カワラアカザ <i>Chenopodium acuminatum</i> var. <i>vachelii</i>	本県の記録はホソバアカザと同種として報告されていて、検討を要する。	絶滅危惧I類		
留意	ヒユ	アカザ	ウスバアカザ <i>Chenopodium leptophyllum</i>	県内の高山の岩場で確認され、個体数も極めて少ない。			帰化とされているが、生育環境から自生の可能性も否定できない。
留意	サクラソウ	サクラソウ	クサレダマ <i>Lysimachia vulgaris</i> subsp. <i>davurica</i>	かつての生育場所からは早い時期に見られなくなり、その後はどこからも生育情報は得られない。	絶滅危惧I類		
留意	アカネ	アカネ	シチョウゲ <i>Leptodermis pulchella</i>	県内では多く栽培されていて、自生地の確かな情報が得られていない。			栽培種の逸出と自生種との区別を検討。
留意	キョウチクトウ	ガガイモ	ツルガシワ <i>Vincetoxicum macrophyllum</i> var. <i>nikoense</i>	過去に生育情報はあがるが、最近の情報は得られない。	情報不足		ツクシガシワとの区別は検討を要する。
留意	キョウチクトウ	ガガイモ	コバノカモメヅル <i>Vincetoxicum sublancoelatum</i> var. <i>sublancoelatum</i>	県内には1箇所記録があるが、記録の場所には確認できない。	情報不足		記録の場所にあるのは別種の可能性がある。
留意	ムラサキ	ムラサキ	ムラサキ <i>Lithospermum erythrorhizon</i>	過去の記録地からは確認されず、他所の生育情報もない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
留意	ヒルガオ	ヒルガオ	マメダオシ <i>Cuscuta australis</i>	過去の記録地からは確認されず、新しい生育地の情報も得られない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IA類	
留意	オオバコ	ゴマノハグサ	ハマクワガタ <i>Veronica javanica</i>	生育地は県南の1箇所のみであったが、早くに絶滅し、他所からの生育情報も得られない。	情報不足	絶滅危惧II類	

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
留意	ハマウツボ	ゴマノハグサ	ゴマクサ <i>Centranthera cochinchinensis</i> var. <i>lutea</i>	県内の分布は極めて稀で、かつての生育地の湿地は開発によって改変された。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
留意	キク	キク	ヒメシオン <i>Aster fastigiatus</i>	県内の生育地は2箇所に記録されているが、最近確認できない。	情報不足		
留意	キク	キク	サワシロギク <i>Aster rugulosus</i> var. <i>rugulosus</i>	生育地は1箇所であるが、近年は生育を確認できない。香川県側の別の場所には現存している。	絶滅危惧I類		
留意	キク	キク	タカサゴソウ <i>Ixeris chinensis</i> subsp. <i>strigosa</i>	過去に記録されている生育地には確認できず、他の場所からの生育情報が得られていない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
留意	キク	キク	ヤマタイミンガサ <i>Parasenecio yatabei</i> var. <i>yatabei</i>	ニシノヤマタイミンガサに比べて極めて少なく、現存する生育地が未確認。	絶滅危惧II類		
留意	キク	キク	ホクチアザミ <i>Saussurea gracilis</i>	山城町に記録がある(阿部1977)が、最近生育情報が得られない。	絶滅		
留意	キク	キク	オナモミ <i>Xanthium strumarium</i> subsp. <i>sibiricum</i>	かつては多く記録されているが、外来種との競合により減少し、最近の生育情報は得られない。	情報不足	絶滅危惧II類	
留意	ウコギ	ウコギ	オカウコギ <i>Eleutherococcus spinosus</i> var. <i>japonicus</i>	県内には1箇所のみ生育地が記録されているが、現状は不明である。	情報不足		
留意	ウコギ	ウコギ	ヤマウコギ <i>Eleutherococcus spinosus</i> var. <i>spinosus</i>	県内には1箇所のみ生育地が記録されているが、現状は不明である。	情報不足		
留意	セリ	セリ	ヒメノダケ <i>Angelica cartilaginomarginata</i> var. <i>cartilaginomarginata</i>	生育地は改変され、その後の生育は確認できない。	絶滅危惧I類		
留意	セリ	セリ	ハナウド <i>Heracleum sphondylium</i> var. <i>nipponicum</i>	県内には1箇所に生育場所が記録されているが、現状は不明である。	情報不足		分類学的にも検討が必要である。

改訂前掲載種数

改訂後掲載種

絶滅	30種	絶滅	13種
		野生絶滅	4種
絶滅危惧I類	533種	絶滅危惧IA類	377種
		絶滅危惧IB類	174種
絶滅危惧II類	156種	絶滅危惧II類	146種
準絶滅危惧	19種	準絶滅危惧	94種
留意	0種	留意	74種
情報不足	73種		
地域個体群	3種	地域個体群	0種
合計	814種	合計	882種
		削除	27種

リストの改訂によって削除した種(維管束植物 : 27種)

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングラ 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
—	オンダ	オンダ	ヤクカナワラビ <i>Arachniodes yakusimensis</i>	県内で本種とされているものは、他種の誤認の可能性が高い。	絶滅危惧I類		別種により削除。
—	オンダ	オンダ	アイツヤナシイノデ <i>Polystichum × amboversum</i>	生育場所は限られ、個体数も極めて少ない。徳島県が基準産地の雑種。	絶滅危惧I類		雑種により削除。
—	ヒルムシロ	ヒルムシロ	オオミズヒキモ <i>Potamogeton × kamogawaensis</i>	県内には1箇所にて生育していたが、次第に減少し2007年ごろに消滅した。	絶滅危惧I類		ミズヒキモとヤナギモとの雑種と判明し、環境省版レッドリストから削除された。
—	ラン	ラン	キイムヨウラン <i>Lecanorchis hokurikuensis</i> f. <i>kiensis</i>	県南の1箇所に記録されているが、最近では確認できない。	情報不足		ホクリクムヨウラン <i>L. hokurikuensis</i> の品種であるとの見解(芹沢2005)により、環境省版のリストから削除された。
—	ラン	ラン	オキナワムヨウラン <i>Lecanorchis triloba</i>	過去の記録地のもはシラヒゲムヨウランとされている。	情報不足	準絶滅危惧	記録地に生育しているものはサキシマスケロクランとする見解もある(遊川2010:私信)。
—	イグサ	イグサ	オオトウシンソウ <i>Juncus decipiens</i> f. <i>robustior</i>	過去に記録があるが、生育情報が得られない。	絶滅危惧II類		品種により削除。
—	カヤツリグサ	カヤツリグサ	イソテンツキ <i>Fimbristylis pacifica</i>	県内では1箇所にのみ記録されているが、該当種は確認できない。	情報不足		標本を検討したところ誤認の可能性が高いので削除。
—	イネ	イネ	イシヅチコウボウ <i>Anthoxanthum horsfieldii</i> var. <i>shikokianus</i>	県内の高山の草地に生育し、ニホンジカの食害の影響を受けている。	絶滅危惧II類		タカネコウボウ var. <i>japonicum</i> と同種とする見解により削除。
—	イネ	イネ	タイワンカモノハシ <i>Ischaemum aristatum</i> var. <i>aristatum</i>	カモノハシと混生し、個体数も多い。	絶滅危惧I類		個体数は多く絶滅の危険性は少ない。
—	メギ	メギ	ルイヨウボタン <i>Caulophyllum robustum</i>	県内の生育地は山地で、ニホンジカの食害の多い場所でも、個体数はそれほど減少が見られない。	絶滅危惧II類		個体数が多い。
—	ツゲ	ツゲ	ツゲ(アサマツゲ、ホンツゲ) <i>Buxus microphylla</i> var. <i>japonica</i>	生育地、個体数ともに多い。	絶滅危惧I類		溪流沿いに生育するコツゲ var. <i>riparia</i> を含めない。
—	ツゲ	ツゲ	フッキソウ <i>Pachysandra terminalis</i>	県内の生育地は比較的限られているが、群生していることが多く、個体数も多い。	絶滅危惧II類		
—	ユキノシタ	ユキノシタ	トサノチャルメルソウ <i>Mitella yoshinagae</i>	生育地、個体数ともに多い。	絶滅危惧II類		絶滅の危険性は少ない。環境省版レッドリストから削除された。
—	マメ	マメ	ヒメツルアズキ <i>Vigna minima</i> var. <i>minima</i>	県内には数箇所に記録があるが、記録地には確認できない。	情報不足	絶滅危惧IB類	記録されている生育地には現存せず、採取されている標本は別種であった。
—	バラ	バラ	アズキナシ <i>Aria alnifolia</i>	県内の山地に生育し、個体数もやや多い。	絶滅危惧II類		絶滅の危険性は少ない。
—	バラ	バラ	ヒメツルキジムシロ <i>Potentilla × yamanakae</i>	基準産地は大歩危で、県内の生育地は限られている。	絶滅危惧I類		
—	バラ	バラ	コバナノワレモコウ <i>Sanguisorba tenuifolia</i> var. <i>parviflora</i>	現存地は県外で県内の生育地は知られていない。	絶滅危惧I類		
—	ブナ	ブナ	イヌブナ <i>Fagus japonica</i>	県内の生育地は多くはないが、絶滅の危険性は少ない。	絶滅危惧II類		
—	スマレ	スマレ	シコクスミレ <i>Viola shikokiana</i>	県内の生育地、個体数ともに多く、現状では絶滅の危険性は少ない。	絶滅危惧II類		
—	アブラナ	アブラナ	オオマルバコンロンソウ <i>Cardamine arakiana</i>	県内の1箇所に記録されているが、近年の生育情報は得られていない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	標本を確認したところ誤認の可能性が高い。
—	タデ	タデ	ニオイタデ <i>Persicaria viscosa</i>	外来種との見解がある。	絶滅危惧I類		帰化の可能性により削除。
—	エゴノキ	エゴノキ	コハクウンボク <i>Styrax shiraiana</i>	県内の生育場所、個体数ともにやや多く、絶滅の危険性は少ない。	絶滅危惧II類		

カテゴリー	科名		種名	理由	備考		
	APGⅢ 植物分類体系	新エングレー 植物分類体系			改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
—	ツツジ	ツツジ	ムギコバノミツバツツジ <i>Rhododendron reticulatum</i> f. <i>bifolium</i>	牟岐町大島に生育していて、個体数も限られている。記録のある出羽島には確認できない。	絶滅危惧Ⅱ類		コバノミツバツツジは変異があり、他地域にも類似のものがあり要検討。品種のため削除。
—	キク	キク	ワジキギク <i>Chrysanthemum × cuneifolium</i>	生育地は限られていて、園芸採取や工事などにより、個体数は減少した。	地域個体群		ナカガワノギクとシマカンギクの自然雑種で、旧鷲敷町が基準産地である。
—	キク	キク	ミヤマコウゾリナ <i>Hieracium japonicum</i>	県内での生育が記録されているが、分布していない可能性が高い。	絶滅危惧Ⅰ類		県外の産地が誤って引用されたと見られる。
—	キク	キク	ホソバオグルマ <i>Inula linariifolia</i>	県内には数箇所に記録されているが、記録地には確認できない。	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類	オグルマの誤認と考えられる。
—	キク	キク	カニコウモリ <i>Parasenecio adenostyloides</i>	県内の生育場はやや限られているが、ニホンジカが非嗜好のため、群落は拡大し、個体数も大幅に増加している。	絶滅危惧Ⅱ類		